

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 総会 2019

2019（令和元年）9月26日（木）～27日（金）

北ビワコホテルグラツィエ（滋賀県長浜市）



旧長浜駅舎



旧敦賀駅舎 ランプ小屋



旧北陸本線山中トンネル（南越前町）

足もとを見つめ直して

日本鉄道保存協会設立のきっかけは、当時の財団法人観光資源保護財団（愛称：日本ナショナルトラスト、以下 JNT）がかねてよりおこなっていた全国鉄道文化財調査、報告書発行、「鉄道文化財を考える」シンポジウム開催など、鉄道保存にかかわるさまざまな活動であった。なかでも昭和 62 年の「トラストトレイン計画」の成功は、大きな力となった。

この「トラストトレイン計画」とは、市民募金で C12-164 号、オハニ 367 号、スハフ 432 号、スハフ 433 号を国鉄から取得し、修理整備後、ボランティア活動により大井川鉄道で「トラストトレイン」として動態保存するスキーム。これらの活動をご指導してくださったのが、青木栄一氏（元東京学芸大学教授）、小池滋氏（元東京都立大学教授）、松澤正二氏（元交通博物館副館長）、星晃氏（元国鉄副技師長）、西尾源太郎氏（元国鉄多度津工場長）他、多数の識者達である。

日本鉄道保存協会の設立は、平成 2 年に開催された第 2 回「鉄道文化財を考えるシンポジウム」で提案された。日本鉄道保存協会設立準備会を経て、翌平成 3 年 4 月から、加盟団体の緩やかなネットワーク組織として正式に発足した。「仲間で手を取り合おう」を合言葉に、蒸気機関車等の歴史的車両の動態保存を行っていた、丸瀬布町、三笠鉄道記念館、北海道鉄道文化協議会、甕れ SLC10-8 運営協議会、財団法人埼玉県北部観光振興財団、上松町、大井川鉄道、財団法人明治村、なつかしの尾小屋鉄道を守る会、九州旅客鉄道株式会社などが当会の創立メンバーとなった。英国のような保存組織を設け、情報交換や技術交流などを通じ、力を合わせて末永い動態保存を目指すことを目的とした。第 1 回総会は大井川鉄道で開催し、代表幹事団体は JNT が務めることに決まった。

以後、2005 年までこの体制が続いたが、諸般の事情により、代表幹事団体が財団法人交通文化振興財団、さらに財団法人交通協力会へと引き継がれることになった。この間、菅建彦氏（公益財団法人交通協力会顧問）のご尽力なくして、今日の当会の姿はなかったと言っても過言ではない。

日本鉄道保存協会設立から 28 年を経た今日、鉄道は近代化遺産として市民権を得、保存活用の輪は広がり、加盟団体や賛助会員は約 60 を数える。あわせて、会を支援してくださる個人会員として、友の会が発足した。昨今では歴史的車両の動態保存から、鉄道遺産を活かしたまちづくりや観光振興、地域活性化などの事例が全国にみられる。

私たちはこの動きを的確にとらえるとともに、日本鉄道保存協会の発足経緯を今一度振り返り、足もとを見つめ直しながら、将来に向けた活動を積極的に推進していきたい。

令和元年 9 月

日本鉄道保存協会 代表幹事団体（仮）
公益社団法人 横浜歴史資産調査会

会 長 宮 村 忠

日本鉄道保存協会

2019年度総会・見学会プログラム

日 時 2019年（令和元年） 9月26日（木）～27日（金）

開 催 地

総 会	北ビワコホテル グラツィエ	本館2階	（滋賀県長浜市）
交流会	（ 同 上 ）	ソプラ館シエーナ	
宿 泊	（ 同 上 ）		

9月26日（木）

14：30	北ビワコホテル グラツィエ	ロビーにて受付開始	
15：00	開会挨拶	日本鉄道保存協会 顧問	菅 建彦 氏
	来賓挨拶	長 浜 市 長	藤井 勇治 氏
	総 会		
15：30	基調講演	「空気で蒸気機関車を動かそう」 若桜駅を元気にする会	北内 泰久 氏
16：00	休 憩		
16：10	開催地報告	長浜市観光振興課長	岩崎 公和 氏
16：30	シンポジウム「鉄道遺産を活かしたまちづくりと地域活性化」		
	パネリスト		
		敦賀市観光部観光交流課長	増田 一条 氏
		南越前町観光まちづくり課長	中村 正直 氏
		京都鉄道博物館 館長	三浦 英之 氏
		小坂町町史編纂室 室長	亀澤 修 氏
	コーディネーター		
		日本鉄道保存協会 事務局長	米山 淳一 氏
17：30	総 括	日本鉄道保存協会 顧問	花上 嘉成 氏
18：00	交 流 会		
	開会挨拶	日本鉄道保存協会 事務局長	米山 淳一 氏
	乾杯挨拶	公益社団法人長浜観光協会 会長	岸本 一郎 氏
20：00	閉会挨拶	栗 原 市	

9月27日（金） 旧北陸本線の鉄道遺産見学会

- 09：00 北ビワコホテル グラツィエ出発（バス3台に分乗）
- 09：30 中ノ郷駅跡
- 09：45 柳ヶ瀬トンネル
- 10：00 小刀根トンネル 下車見学
- 10：45 敦賀鉄道資料館 見学
- 11：30 赤レンガ倉庫 旧敦賀港駅ランプ小屋 見学
- 12：10 昼 食（敦賀日本海さかな街「若狭海鮮宝卓 湾彩」）
- 13：30 檜曲トンネル～トンネル群
- 14：15 山中トンネル 下車見学
- 15：00 今庄駅到着 駅舎内展示コーナー見学 ※下車解散
- 15：45 敦賀駅到着 ※下車解散

※下車駅は今庄駅、敦賀駅のどちらかを選べます。

以 上

日本鉄道保存協会(RPSJ)2019年度総会 出欠一覧表

令和元年9月17日 現在

資 格	所 属	役 職	氏 名	総会	交流会	宿泊	見学会
顧問	東京学芸大学	名誉教授	青木 栄一	欠席			
顧問	東京女子大学	名誉教授	小池 滋	欠席			
顧問	高崎経済大学	教 授	大島登志彦	○	○	○	○
顧問	公益財団法人 交通協力会	顧 問	菅 建彦	正会員欄を参照			
顧問	三菱地所株式会社		辻 聡	○	○	○	○
顧問	一般財団法人 東武博物館	理事 名誉館長	花上 嘉成	○	○	○	○
正会員	遠軽町 (旧丸瀬布町)	丸瀬布総合支所産業課	上戸 智仁	欠席			
正会員	陸別町商工会 (ふるさと銀河線りくべつ鉄道)	事務局長	杉本 武勝	欠席			
正会員	三笠市 (三笠鉄道村)		小林 梨奈	欠席			
正会員	三菱大夕張鉄道保存会	会 長	奥山 道紀	欠席			
正会員	北海道旅客鉄道株式会社		関谷 太介	欠席			
正会員	一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会		星野 正博	欠席			
正会員	七百レールファンクラブ (七百鉄道記念館)	副会長	野田 悟	欠席			
正会員	小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)	会 長	千葉 裕之	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)	副会長	吉野 幸裕	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)		吉野千鶴子	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)	総務企画局長	亀沢 修	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)		中村 和之	○	○	○	○
正会員	小坂鉄道保存会 (小坂鉄道レールパーク)		大谷 清次	○	○	○	○
正会員	栗原市 (くりはら田園鉄道公園)	学芸員	高橋 尚史	○	○	○	○
正会員	栗原市 (くりはら田園鉄道公園)	学芸員	大杉 要	○	○	○	○
正会員	真岡線SL運行協議会		間宵 嘉明	欠席			
正会員	あしおトロッコ館	総務担当	岡本 憲之	欠席			
正会員	鹿島鉄道保存会 (鹿島鉄道記念館)		加藤三千尋	欠席			
正会員	銚田駅保存会	理 事	川津 重夫	○	○	○	○
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)		野口 稔夫	○	○	○	○
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)		薄井 進	○	○	○	○
正会員	ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)		小川 知彦	○	○	○	○
正会員	一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 (碓氷峠鉄道文化むら)		佐藤 勝彦	欠席			
正会員	デハ3499号車保存会	代 表	日暮 成一	○	○	○	○
正会員	デハ3499号車保存会		岩崎 直彦	○	○	×	×
正会員	デハ3499号車保存会		千秋 太郎	○	○	○	○
正会員	日本工業大学 (工業技術博物館)		丹治 明	欠席			
正会員	秩父鉄道株式会社		木村 壮史	欠席			
正会員	東日本旅客鉄道株式会社		安藤 文人	欠席			
正会員	公益財団法人 東日本鉄道文化財団		岩見 隆則	○	×	×	×
正会員	一般財団法人 東武博物館		伊藤美千夫	欠席			
正会員	公益財団法人 日本ナショナルトラスト		梅宮 路子	欠席			
正会員	公益財団法人 交通協力会	顧 問	菅 建彦	○	○	○	○
正会員	横浜市電1156号保存会		齊藤 大起	○	○	×	×
正会員	公益社団法人 横浜歴史資産調査会	常務理事	米山 淳一	○	○	○	○
正会員	新潟市新津鉄道資料館	副館長	加藤 裕之	○	○	○	○
正会員	上松町 (赤沢森林鉄道)		藤原 真	欠席			
正会員	足久保鐵道株式会社	代表取締役	玉井 宏政	○	○	○	×
正会員	大井川鐵道株式会社		坂本 光司	○	○	○	○
正会員	東海旅客鐵道株式会社 (リニア・鉄道館)		内山 貴晶	○	○	○	○
正会員	公益財団法人 明治村 (博物館明治村)		近藤 雅隆	欠席			
正会員	NPO法人 愛岐トンネル群保存再生委員会	理事長	村上 真善	欠席			
正会員	NPO法人 神岡・町づくりネットワーク		田口由加子	○	○	○	○
正会員	公益社団法人 長浜観光協会 (長浜鉄道スクエア)		岸本 一郎	○	○	×	×
正会員	公益社団法人 長浜観光協会 (長浜鉄道スクエア)		今井 克美	○	○	×	○
正会員	公益社団法人 長浜観光協会 (長浜鉄道スクエア)		梅園いつ子	○	○	×	○
正会員	公益社団法人 長浜観光協会 (長浜鉄道スクエア)		木村 宏	○	○	○	○
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会	長浜市長	藤井 勇治	○	×	×	×
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会		中村 正直	○	○	×	×
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会		岩崎 公和	○	○	×	×
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会		増田 一条	○	○	×	×
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会		堤 昭彦	○	○	×	○
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会		森田まどか	○	○	×	○
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会		村浪 智穂	○	○	×	○
正会員	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会		西田 周平	○	○	×	○
正会員	NPO法人 貨物鉄道博物館	常務理事	南野 哲志	欠席			
正会員	西日本旅客鐵道株式会社	広報部鉄道文化推進室課長代理	佐治 慎一	○	○	○	○
正会員	公益財団法人 交通文化振興財団	交通資料調査センター長	川端 英登	○	○	×	○

資 格	所 属	役 職	氏 名	總會	交流会	宿泊	見学会
正会員	宮津海陸運輸株式会社（加悦SL広場）	管理課長	柴田 万喜也	○	○	×	×
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会	理事長	吉田 博一	○	○	○	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会	副理事長	中井 喜宏	○	○	○	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会		篠崎 隆	○	○	○	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会		戸政 博	○	○	○	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会		水町 健	○	○	○	○
正会員	NPO法人 加悦鐵道保存会		吉田 直博	○	○	×	×
正会員	片上鐵道保存会	業 務	森岡 誠治	○	○	○	○
正会員	片上鐵道保存会		石田 協	○	○	○	○
正会員	片上鐵道保存会		甲本 康則	○	○	○	○
正会員	若桜駅を元気にする会		北内 泰久	○	○	○	○
正会員	NPO法人 市民文化財ネットワーク鳥取		太田 緑	欠席			
正会員	山口線SL運行対策協議会		西山 洋史	欠席			
正会員	西条市（鐵道歴史パーク in SAIJO）	四国鐵道文化館館長	加藤 圭哉	○	○	○	○
正会員	馬路村（魚梁瀬森林鐵道）	魚梁瀬支所	白川 卓	欠席			
正会員	宇高連絡船愛好会	代 表	三村 卓也	○	○	○	○
正会員	九州旅客鐵道株式会社		明石 卓也	欠席			
正会員	北九州線車輛保存会	代 表	手嶋 康人	○	○	○	○
正会員	北九州線車輛保存会		毎熊 晃	○	○	○	○
賛助会員	株式会社ネコ・パブリッシング	鐵道事業部長	山下 修司	欠席			
賛助会員	株式会社鐵道ジャーナル社		伊藤 丈志	欠席			
賛助会員	日本鐵道写真作家協会	会 長	猪井 貴志	○	○	○	○
賛助会員	有限会社 レイルマンフォトオフィス	代 表	山崎 友也	○	○	○	○
賛助会員	北陸重機工業株式会社	営業課長	岩橋 正人	欠席			
賛助会員	有限会社鐵道フォーラム	代表取締役	伊藤 博康	○	○	○	○
賛助会員	有限会社鐵道フォーラム		仲沢 幸祐	○	○	○	○
賛助会員	株式会社片上鐵道		森岡 直子	欠席			
賛助会員	株式会社日本旅行		瀬端 浩之	欠席			
賛助会員	株式会社井門コーポレーション	代表取締役	井門 義博	○	○	○	×
賛助会員	株式会社井門コーポレーション		丹下 昭英	○	○	○	○
賛助会員	株式会社東海汽缶	取締役業務統括部長	石川 寛之	○	○	○	○
賛助会員	株式会社トレインプラン	代表取締役	太田 裕二	○	○	×	×
友の会会員			赤羽 誠	○	○	○	○
友の会会員			阿部 豊	○	○	○	○
友の会会員			岩野 弘一	○	○	○	○
友の会会員	東京地下鉄株式会社		倉繁 聡	○	○	○	○
友の会会員			柴山 純一	欠席			
友の会会員	清水薫 レイルウェイフォトオフィス	代 表	清水 薫	○	○	×	○
友の会会員	トラベルライター		白川 淳	○	○	○	○
友の会会員			神野 清司	欠席			
友の会会員			関田 克孝	欠席			
友の会会員			関本 康人	欠席			
友の会会員			橘 秀幸	○	○	○	○
友の会会員			田中 光一	○	○	○	○
友の会会員			田中 浩史	○	○	○	○
友の会会員			長野 光芳	○	○	○	○
友の会会員	OFFICE NATORI		名取 紀之	欠席			
友の会会員			西尾 恵介	○	○	○	○
友の会会員			野田 知毅	欠席			
友の会会員			藤井 修	○	○	○	○
友の会会員			水野 弥彦	欠席			
オブザーバー	株式会社 ヤマネ	技術部課長	高見 浩	○	○	○	○
オブザーバー			畠山 明久	×	×	×	○
オブザーバー			竹内 宇哲	○	○	○	○
オブザーバー	わらでつ倶楽部	会 長	平湯 和範	○	×	×	×
オブザーバー	株式会社ジェイアール四国企画	営業部長	松本 新一	○	○	×	○
オブザーバー	井笠鐵道ホジ9保存会		渡邊 靖貴	○	○	○	○
オブザーバー	機関車C5631号保存会	技術局	後藤 優斗	○	○	○	○
オブザーバー	江の川鐵道		吉田 悠生	○	○	○	○
オブザーバー	株式会社 サッパボイラ		田中 俊彦	○	○	×	×
オブザーバー	株式会社 サッパボイラ		颯波 郁子	○	○	×	×
事務局	日本鐵道保存協会	事務局長	米山 淳一	正会員欄を参照			
事務局	日本鐵道保存協会	事務局	河合 桃子	○	○	○	○

日本鉄道保存協会 会員名簿

2019.09.17 現在

<凡 例>

番 号	団 体 名 (施設名)
〒	団体所在地 / 連絡先住所
	電話番号 / Fax 番号
	団体代表者名
	RPSJ 担当者名 (☆)

正 会 員

01 遠軽町 (旧丸瀬布町)

〒099-0203 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布中町 115-2
遠軽町役場丸瀬布総合支所 産業課
Tel 0158-47-2213 Fax 0158-47-2128

町 長 佐々木修一
係 長 上戸 智仁 (☆)

02 陸別町商工会 (ふるさと銀河線りくべつ鉄道)

〒089-4300 北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 69-1
Tel 0156-27-2244 Fax 0156-27-2791

会 長 石橋 強
理 事 山本 周二
事務局長 杉本 武勝 (☆)

03 三笠市 (三笠鉄道村)

〒068-2192 北海道三笠市幸町 2
三笠市役所 経済建設部商工観光課 商工観光係
Tel 01267-2-3997 Fax 01267-2-7880

市 長 西城 賢策
主 事 小林 梨奈 (☆)

04 三菱大夕張鉄道保存会

〒069-0855 北海道江別市大麻宮町 4-6
Tel 011-387-4783

会 長 奥山 道紀
事務局長 今井 一郎 (☆)

05 北海道旅客鉄道株式会社

〒060-8644 札幌市中央区北 11 条西 15-1-1
Tel 011-700-5785 Fax 011-700-5786

代表取締役社長 島田 修
運輸部運用課 関谷 太介 (☆)

06 一般社団法人 南部縦貫レールバス愛好会

〒133-0051 江戸川区北小岩 2-14-2-111 号
Tel 03-3672-7709

代表理事 星野 正博 (☆)

07 七百レールファンクラブ（七百鉄道記念館）

〒336-0926 さいたま市緑区東浦和 7-4-12-103
Tel 070-6528-2629

会 長 斎藤 正
副会長 野田 悟 (☆)

08 小坂鉄道保存会（小坂鉄道レールパーク）

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉦山古川 20-9
小坂鉄道レールパーク 気付
Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002

代 表 千葉 裕之
総務局長 亀沢 修 (☆)

09 栗原市（くりはら田園鉄道公園）

〒987-2252 宮城県栗原市築館薬師 1-7-1
栗原市役所企画部企画課
Tel 0228-22-1125 Fax 0228-22-0313

市 長 千葉 健司
企画部企画課 佐藤 喬 (☆)

10 真岡線 SL 運行協議会

〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷 4412
Tel 0285-82-9151 Fax 0285-82-9152

会 長（真岡市長） 石坂 真一
事務局長 野澤 伸一
担 当 間宵 嘉明 (☆)

11 あしおトロッコ館

〒321-1523 栃木県日光市足尾町松原 2825
Tel・Fax 0288-93-0189

総務担当 岡本 憲之 (☆)

12 鹿島鉄道保存会（鹿島鉄道記念館）

〒113-0033 文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階
株式会社パレア
Tel 03-5802-2755 Fax 03-3818-2700

代 表 加藤三千尋（☆）

13 鉾田駅保存会

〒310-0001 水戸市上河内町 162
Tel・Fax 029-239-6735

理 事 川津 重夫（☆）

14 ザ・ヒロサワ・シティ（レールパーク）

〒308-0811 茨城県筑西市茂田 ザ・ヒロサワ・シティ
株式会社広沢商事内
Tel 0296-21-1234 Fax 0296-24-7837

代 表 廣澤 清
担 当 野口 稔夫（☆）

15 一般財団法人 碓氷峠交流記念財団（碓氷峠鉄道文化むら）

〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16
Tel 027-380-4163 Fax 027-380-4111

代表理事 中島 吉久
館 長 飯沼 勲
事務局長 瀧川 広（☆）

16 デハ 3499 号車保存会

〒331-0802 さいたま市北区本郷町 313 蓮見住宅 C-3

代 表 日暮 成一（☆）

17 日本工業大学（工業技術博物館）

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台 4-1
日本工業大学工業技術博物館
Tel 0480-33-7545 Fax 0480-33-7570

学 長 成田 健一
館 長 清水 伸二
講師・学芸員 丹治 明（☆）

18 秩父鉄道株式会社

〒360-0033 埼玉県熊谷市曙町 1-1
Tel 048-523-3337 Fax 048-526-0551

代表取締役社長 大谷 隆男
技術部車両課 木村 壮史（☆）

19 東日本旅客鉄道株式会社

〒151-8578 渋谷区代々木 2-2
Tel 03-5334-1352

代表取締役社長 深澤 祐二
総務部企画グループ 安藤 文人 (☆)

20 公益財団法人 東日本鉄道文化財団

〒330-0852 さいたま市大宮区大成 3-47 鉄道博物館
Tel 048-651-0088 Fax 048-651-0570

会 長 富田 哲郎
学芸部 五十嵐健一 (☆)

21 一般財団法人 東武博物館

〒131-0032 墨田区東向島 4-28-16
Tel 03-3614-8811 Fax 03-3614-8814

理事長 三輪 裕章
理事・名誉館長 花上 嘉成
専務理事・館長 山田 智則
管理課長 山澤 晴行 (☆)

22 公益財団法人 日本ナショナルトラスト

〒102-0083 千代田区麴町 4-5 海事センタービル 4 階
Tel 03-6380-8511 Fax 03-3237-1190

会 長 梅崎 壽
事業課 梅宮 路子 (☆)

23 公益財団法人 交通協力会

〒100-0005 千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903
Tel 03-6269-9808 Fax 03-6269-9809

顧 問 菅 建彦 (☆)

24 横浜市電 1156 号保存会

〒231-8445 横浜市中区太田町 2-23 神奈川新聞社文化部
Tel 090-9015-3707

代 表 齊藤 大起 (☆)

25 公益社団法人 横浜歴史資産調査会 ※新加入

〒231-8445 横浜市中区相生町 3-61 泰生ビル 405
Tel 045-651-1730

会 長 宮村 忠
常務理事 米山 淳一 (☆)

26 新潟市新津鉄道資料館

〒956-0816 新潟市秋葉区新津東町 2-5-6
新潟市文化スポーツ部歴史文化課 新津鉄道資料館
Tel 0250-24-5700 Fax 0250-25-7808

館 長 高山 栄一
副館長 加藤 裕之 (☆)

27 上松町（赤沢森林鉄道）

〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り 2-13
上松町役場産業観光課
Tel 0264-52-4804 Fax 0264-52-1038

町 長 大屋 誠
商工観光係 藤原 真 (☆)

28 足久保鐵道株式会社

〒420-0905 静岡市葵区南沼上 3-11-3
Tel 054-207-7444

代表取締役 玉井 宏政 (☆)

29 大井川鐵道株式会社

〒428-8503 静岡県島田市金谷東 2 丁目 1112-2
Tel 0547-45-4111 Fax 0547-45-4115

代表取締役社長 鈴木 肇
鉄道部長 坂本 光司 (☆)

30 東海旅客鐵道株式会社（リニア・鉄道館）

〒455-0848 名古屋市港区金城ふ頭 3-2-2
リニア・鉄道館
Tel 052-389-6100 Fax 052-389-6101

代表取締役社長 金子 慎
館 長 天野 満宏 (☆)

31 公益財団法人 明治村（博物館明治村）

〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地
Tel 0568-67-0314 Fax 0568-67-0358

館 長 中川 武
所 長 三好 学
主 任 近藤 雅隆 (☆)

32 NPO 法人 愛岐トンネル群保存再生委員会 ※新加入

〒463-0032 愛知県春日井市鳥居松町 2-83 ポトス春日井版編集室内
Tel 090-4860-4664

理事長 村上 真善 (☆)

33 NPO 法人 神岡・町づくりネットワーク

〒506-1147 岐阜県飛騨市神岡町東雲 1327-2
Tel 090-2454-1506 Fax 0578-82-6677

理事長	鈴木 進悟
レールマウンテン	
バイク事務局	田口由加子 (☆)

34 公益社団法人 長浜観光協会（長浜鉄道スクエア）

〒526-0057 滋賀県長浜市北船町 1-41
Tel 0749-63-4091 Fax 0749-64-0396

館 長	今井 克美
主 査	梅園いつ子 (☆)

35 長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会

〒919-0292 福井県南条郡南越前町東大道 29-1
南越前町役場 観光まちづくり課
Tel 0778-47-8002 Fax 0778-47-3261

会長（南越前町長）	岩倉 光弘
事務局長	中村 正直
事務局	西田 周平 (☆)

36 NPO 法人 貨物鉄道博物館

〒510-8014 三重県四日市市富田 3-22-83
三岐鉄道株式会社内
Tel 059-364-2141 Fax 059-364-2142

館 長	吉岡 心平
常務理事	南野 哲志 (☆)

37 西日本旅客鉄道株式会社

〒530-8341 大阪市北区芝田 2-4-24
Tel 06-6375-2176 Fax 06-6376-6053

代表取締役社長	来島 達夫
広報部	岩倉 秀昭 (☆)

38 公益財団法人 交通文化振興財団

〒531-0011 大阪市淀川区西中島 4-2-26 天神第一ビル 1004
Tel 06-6309-5113 Fax 06-6309-5114

理事長	来島 達夫
専務理事	三浦 英之
交通調査センター長	川端 英登 (☆)

39 宮津海陸運輸株式会社（加悦 SL 広場）

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町滝 941-2
Tel 0772-42-3186 Fax 0772-42-5300

代表取締役
管理課長
館農 昇
柴田万喜也（☆）

40 NPO 法人 加悦鐵道保存会

〒612-8485 京都市伏見区久我森の宮町 4-144
Tel 090-3829-4000

理事長
副理事長
吉田 博一
中井 喜宏（☆）

41 片上鐵道保存会

〒708-0001 岡山県津山市小原 149-5
Tel 090-7896-4858

代表幹事
事務局
甲本 康則
森岡 誠治（☆）

42 若桜駅を元気にする会

〒680-0792 鳥取県八頭郡若桜町若桜 801-5
若桜町役場ふるさと創生課
Tel 0858-82-2231 Fax 0858-82-0134

会 長
事務局
事務局
藤原 源市
谷本 剛
車井 育子（☆）

43 NPO 法人 市民文化財ネットワーク鳥取

〒680-0022 鳥取市西町 1-106
Tel 0857-26-1151 Fax 0857-22-4103

理事長
事務局
渡辺 一正
太田 縁（☆）

44 山口線 SL 運行対策協議会

〒753-8501 山口市滝町 1-1
山口県庁観光スポーツ文化部 観光プロジェクト推進室
Tel 083-933-3170 Fax 083-933-3179

会 長
プロモーション
グループ
三坂 啓司
西山 洋史（☆）

45 西条市（鉄道歴史パーク in SAIJO）

〒793-8601 愛媛県西条市明屋敷 164

Tel 0897-56-5151 Fax 0897-52-1200

市 長 玉井 敏久
観光交流センター 寺田 達（☆）

46 馬路村（魚梁瀬森林鉄道）

〒781-6202 高知県安芸郡馬路村魚梁瀬 10-11

馬路村役場魚梁瀬支所 やなせ森林鉄道運営委員会

Tel 0887-43-2211 Fax 0887-43-2208

村 長 山崎 出
魚梁瀬支所 久保 可奈（☆）

47 宇高連絡船愛好会 ※新加入

〒706-0011 岡山県玉野市宇野 5 丁目 21-13

Tel 0863-32-4081

代 表 三村 卓也（☆）

48 九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21

Tel 092-474-2541 Fax 092-474-3898

代表取締役社長 青柳 俊彦
広報部 明石 卓也（☆）

49 北九州線車輛保存会

〒818-0071 福岡県筑紫野市二日市西 3-12-1

Tel 080-6412-1666

代 表 手嶋 康人（☆）

賛助会員

01 株式会社ネコ・パブリッシング

〒153-8545 目黒区下目黒 2-28-18 目黒山手通ビル
Tel 03-5745-7813

鉄道事業部長 山下 修司

02 株式会社鉄道ジャーナル社

〒102-0072 千代田区飯田橋 4-8-6 日産ビル 3F
Tel 03-3264-1891 Fax 03-3265-3597

編集長 宮原 正和
編集部 伊藤 丈志 (☆)

03 日本鉄道写真作家協会

〒160-0023 新宿区西新宿 7-5-14 井上ビル 12 号館 9 階
(有) マシマ・レイルウェイ・ピクチャーズ内

会 長 猪井 貴志
事務局 村上 悠太 (☆)

04 有限会社 レイルマンフォトオフィス

〒102-0072 千代田区飯田橋 3-4-3 エレガンス飯田橋 504
Tel 03-5212-2045 Fax 03-5212-2046

会 長 山崎 友也 (☆)

05 北陸重機工業株式会社

〒950-0871 新潟市山木戸 7-3-69
Tel 025-274-3311 Fax 025-271-4812

取締役会長 霜鳥 勝徳
営業課長 岩橋 正人 (☆)

06 有限会社鉄道フォーラム

〒484-0085 愛知県犬山市西古券 57
Tel 0568-62-9603 Fax 0568-61-6310

代表取締役 伊藤 博康 (☆)

07 株式会社片上鉄道

〒708-1523 岡山県久米郡美咲町吉ヶ原 517
Tel 080-3541-5552 Fax 082-507-2035

代表取締役 森岡 直子 (☆)

08 株式会社日本旅行

〒105-8606 東京都中央区日本橋 1-19-1 日本橋ダイヤビルディング 12 階
Tel 03-6895-7865

代表取締役社長 堀坂 明弘
情報システム部 瀬端 浩之 (☆)

09 株式会社井門コーポレーション ※新加入

〒140-0011 東京都品川区東大井 5-15-3
Tel 03-3450-11112 Fax 03-3450-2516

代表取締役社長 井門 義博 (☆)

10 株式会社東海汽缶 ※新加入

〒424-0065 静岡県静岡市清水区長崎 970
Tel 054-346-6688

取締役業務統括部長 石川 寛之 (☆)

11 株式会社トレインプラン

〒662-0054 兵庫県西宮市大谷町 3-30

代表取締役 太田 裕二 (☆)

友の会 会員 (五十音順)

赤羽 誠	阿部 豊	岩野 弘一	加藤 圭哉	河合 桃子
倉繁 聡	柴山 純一	清水 薫	白川 淳	神野 清
関田 克孝	関本 康人	橘 秀幸	田中 光一	田中 浩史
長野 光芳	名取 紀之	西尾 恵介	野田 知毅	藤井 修
水野 彌彦				

以 上

日本鉄道保存協会規約

(名称)

第1条 この会の名称は、日本鉄道保存協会（以下「協会」という）とする。

(目的)

第2条 協会は、歴史的鉄道車両、構造物、建物等を保存している団体が集い、相互に情報を交換し、将来にわたる保存・活用を推進することを目的とする。

(会員)

第3条 協会は、正会員たる加盟団体および賛助会員をもって構成する。

(会議)

第4条

1. 協会の会議は、総会および幹事会とする。
2. 総会は年1回開催するものとし、必要のつど臨時に開催することができる。

(役員団体)

第5条

1. 協会に代表幹事団体1団体、幹事団体2団体、会計監事団体2団体を置く。
2. 代表幹事団体、幹事団体、会計監事団体は、加盟団体の互選により選出する。
3. 代表幹事団体は、協会を代表し会務を総理する。
幹事団体は、総会その他会務の執行に関する重要事項を協議する。
会計監事団体は、協会の会計を監査する。
4. 役員団体の任期は2年とし、重任を妨げない。

(顧問)

第6条 協会に顧問を置く。顧問は、総会において代表幹事団体が推薦し、任期は2年とし、重任を妨げない。

(友の会)

第6条の2

1. 協会に日本鉄道保存協会友の会（以下「友の会」という）を設置し、協会の活動を支持する個人をもってその会員とする。
2. 友の会会員は総会に出席することができる。但し議決権を有しない。

(事務局)

第7条 協会の事務局は、代表幹事団体に置く。

(会費)

第8条

1. 協会の経費は、正会員、賛助会員および友の会会員が拠出する会費、並びに寄付金により賄う。
2. 年会費の額は、正会員12,000円、賛助会員12,000円（1口）、友の会会員3,000円とする。
3. 会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(規約の改正)

第9条 この規約の改正は、総会の議決によらなければならない。

付則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。

総会の運営方法

原則として加盟団体が輪番制とし、開催に際しては、代表幹事団体および幹事団体ならびに開催場所の団体が協同して行う。

平成 3年 4月 1日施行
平成 6年 8月10日改正
平成16年 9月10日改正
平成20年10月 2日改正

団体名	遠軽町	〒 099-0203 Tel : 0158-47-2213 Fax : 0158-47-2128 URL : http://engaru.jp/ Email : m-sangyou@engaru.jp 担当者: 丸瀬布総合支所産業課 係長 上戸 智仁
-----	-----	---



H26.9.23 撮影

雨宮 21 号・DL 機関車併走同時運行

雨宮21号は森林鉄道用の蒸気機関車として昭和3年から約30年間、木材の運搬や生活物資の運搬のため武利意森林鉄道で活躍した車輛の1台です。

用途廃止後は、町民の保存運動によって唯一本機のみがスクラップ化を免れ、昭和54年には森林公園いこいの森で待望の動態保存が実現しました。

平成 16 年度 北海道遺産に選定 (NPO 法人北海道遺産協議会)

平成 20 年度 近代化産業遺産に認定 (経済産業省)

平成 24 年度 準鉄道記念物に認定 (JR 北海道)

平成 29 年度 林業遺産に認定(一般社団法人 日本森林学会)

1. 運行日 平成 31 年 4 月 27 日から 10 月 20 日までのGW・夏休み・土・日・祝日

2. 運行時間 10 時から 16 時 30 分 (30 分毎)

3. 運行区間 森林公園いこいの森園内 2 km

4. 乗車料金 大人 500 円 (高校生以上) 小人 250 円 (4 才以上)

【近況報告】

◆ 10t ディーゼル機関車購入◆

林野庁中部森林管理局愛知森林管理事務所名古屋事務所管理(定光路自然休養林保管)の協三工業製 10t ディーゼル機関車を購入しました。

このディーゼル機関車は、紋別郡滝上営林署、長野県上松営林署で木材輸送のために使われていたものです。

現在、動態保存に向けて協議を進めているところです。



◆ 雨宮 21 号卒寿記念雪中特別運行終了◆

2018 年 12 月 8 日・9 日、丸瀬布森林公園いこいの森で「雨宮 21 号卒寿記念雪中特別運行」が行われ、乗車や写真撮影などを目的に町内外から延べ約 850 人が来園しました。

また、「北海道の簡易軌道」が第 3 回北海道遺産に選定され、鶴居村の村長が駆けつけてくれました。

雪中運行は、平成 24 年の丸瀬布地域開拓 100 年記念イベント以来、6 年ぶりとなります。

来園されたお客様は、2 日間限定の貴重なイベントに雨宮 21 号の魅力を余すことなく堪能していました。



団体名



〒 089-4300

北海道足寄郡陸別町字陸別原野基線 6 9 番地 1

Tel : 0156-27-2244 Fax : 0156-27-2791

URL <http://rikubetsu-railway.jimdo.com/>

Email ginga@bz01.plala.or.jp

☆運転体験の出来る観光鉄道☆

【営業期間】

4月下旬～10月下旬

【気動車乗車体験】

CR75（銀河鉄道999ラッピング列車）を使用し運行しています。

料金：（構内）

中学生以上 300円、

小学生 200円、小学生未満無料

（構外）

中学生以上 500円

小学生 300円、小学生未満無料

【トロッコ体験】

足こぎ式を利用し400mの周回コースを1周

料金：中学生以上 300円・小学生 200円

小学生未満無料

【気動車運転体験】

CR70・75型を使用し、運転士指導の下で運転していただくコースです。

（Sコース）

女性の方でも簡単に体験できます。

料金：2,000円

対象者：小学校高学年以上身長130cm以上

体験運転：約20分間（運転・説明）

体験時間：約80分間（運転）

（Lコース）

1週間前完全予約制

予約方法：インターネットまたは電話予約

料金：20,000円



（銀河コース）

1週間前完全予約制

※Lコース体験者のみ体験可能

予約方法：インターネットまたは電話予約

料金：30,000円

（銀河コースパックセット）

1週間前完全予約制

初心者でも銀河コースを運転出来るのでおすすめ！

予約方法：インターネットまたは電話予約

料金：50,000円

体験時間：計約160分間（講習・出区点検・運転）

Lコース80分間・銀河コース80分間

Lコースと銀河コースの体験に

2食付の宿泊が付き50,000円

<令和元年度事業経過>

2008年4月に開業した「ふるさと銀河線りくべつ鉄道」は、今年12年目を迎え、陸別町観光協会主催の「りくべつ鉄道まつり」を第11回として開催しました。2010年に「日本鉄道保存協会全国大会」が陸別町で開催され、2012年より1.6km構外へ延伸した運転体験「銀河コース」を開設。翌年にはトロッコ周回路1周400mを敷設し、同年9月には「銀河鉄道999」の原作者「松本零士氏」が来町され陸別町銀河の森天文台とメーテル号を結びつけた共同イベントを開催。また、2015年から旧池北線で最後に残っている鉄路5.7km(旧陸別駅～旧分線駅間)の運行を実現させました。今年は開業日よりNHKテレビ小説「なつぞら」のデザインをラッピングした車両を9月28日放送終了日まで運行しました。

<令和元年度イベントスケジュール>



<りくべつ鉄道まつり>

4月27日(土) 平成31年度営業開始

なつぞらラッピング車両登場！

5月 5日(日) GW 構外特別運行

★ 7月20日(土) 花火列車運行

7月21日(日) 第11回りくべつ鉄道まつり(鉄旅タレント来鉄)

8月10日(土)～15日(木) お盆特別営業

8月11日(日) 夏休み構外特別運行

9月22日(日) 網走線開業記念構外特別運行

10月13日(日) 鉄道の日記念構外特別運行

10月31日(水) 令和元年度営業最終日

団体名	北海道三笠市	〒068-2192 北海道三笠市幸町 2 番地 三笠市役所商工観光課 Tel : 01267-2-3997 Fax : 01267-2-7880 Email : kankou@city.mikasa.hokkaido.jp URL : http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/
施設名	三笠鉄道村	〒068-2145 北海道三笠市幌内町 2 丁目 三笠鉄道記念館 Tel : 01267-3-1123 Fax : 01267-2-6965 Email : tetsudoumura@s-304.com URL : http://www.s-304.com

三笠鉄道記念館は、北海道鉄道発祥の地として歴史的遺産・文化保存のため、昭和 62 年にオープンしました。館内には、明治時代の貴重な材料や、大正、昭和期に実際に使用された時刻表・制服・S L 部品・信号機をはじめ北海道鉄道開拓時代から旧国鉄時代に活用されていた貴重な鉄道関連品を展示しています。動体保存されている蒸気機関車 S-304 号は、1939 年に日本製鉄輪西製鉄所（後の新日本製鐵室蘭製作所）向けに作られた産業用機関車です。

■ S L 運行（乗車 1 回 300 円）

運行日……… 4 月 16 日から

10 月 15 日までの土・日・祝日

※ 7 月下旬～8 月中旬までの夏休み期間は、

休館日を除き毎日運行。

土曜……… 12 : 00 始発～16 : 00 発最終

日曜・祝日… 10 : 00 始発～16 : 00 発最終

※ 30 分毎の発車です。

ただし、12 : 30 発の便はありません。



■ S L 機関士運転体験

三笠鉄道村では、蒸気機関車 S-304 号の運転体験ができます。村内の幌内鉄道 450m を 1 往復。5 分足らずのわずかな時間ですが、気分は S L 機関士そのもの。全国各地からの参加があり、会員数も 700 人を超え、多くの方楽しんでいただいています。（詳しい体験方法はホームページご参照）

■ 展示車両（三笠鉄道村幌内ゾーン）

動態展示…S-304（C 形タンク機）、コトラ 149456、コトラ 153095

機関庫内展示…C122（国鉄 C12 形機関車）、59609（国鉄 9600 形機関車）、ED76505、DD13353

屋外展示…DD51610、オハフ 33451、スハフ 4412、スユニ 50505、キハ 2252、キハ 2723、キロ 26104、キハ 5616、DD1517、DD141、チキ 6147、ソ 81、スエ 3041、スエ 321、DD1615、キ 274、キ 756、セキ 6657、トラ 72568、ワム 66172、DE101702、排雪モーターカー 510、ロータリー排雪車 DL7L、坑外用 8 t 電気機関車 2 両

食堂車…スハフ 4520、キシ 8031、オハフ 46504

■ イベント開催

毎年のゴールデンウィーク、お盆、秋にイベントを実施。イベント時には、オリジナルヒーロー「鉄道戦隊ぽっぽレンジャー」が登場します。

また、客車ではなく、運行している S L の運転席に乗車できる「S L 運転席乗車体験」を行っているほか、「ぽっぽレンジャービンゴ大会」や「どん菓子」実演など、小さなお子様連れのお客様で賑わいました。



団 体 名	三菱大夕張鉄道保存会	連絡先 068-0534 夕張市清水沢宮前町 39 宮コ-23 清水沢コミュニティゲート気付 三菱大夕張鉄道保存会 携帯 090-8635-5207
-------	------------	--

○三菱大夕張鉄道について

三菱大夕張鉄道は明治 44(1911)年に大夕張炭坑の専用鉄道として清水沢～二股間(後の南大夕張)が開通、その後炭鉱の北部移転に伴い、南大夕張～通洞間(後の大夕張炭山)が延長された。昭和 14(1939)年には地方鉄道に改組され、大夕張炭鉱の他、沿線の中小炭鉱の石炭輸送、森林鉄道で運び出された本材輸送など、沿線の開発に大きな貢献をした。また、道路が未整備であった昭和 30 年代後半までは、地域住民の貴重な足でもあり、昭和 62(1987)年に南大夕張炭鉱の



合理化で鉄道が廃止されるまで残された「石炭ストーブ」列車は夕張の冬の風物詩でもあり住民等に親しまれていた。

○三菱大夕張鉄道保存会の活動

鉄道廃止後、最終日の編成のままの客車・貨車などが南大夕張駅跡に残された。平成 2(1990)年には南大夕張炭鉱が閉山、保存・公園化を前提として車両が夕張市へ譲渡された(実際に正式譲渡されたのは平成 19 年)。公園化が具体化しないまま平成 11(1999)年には客車 1 両が積雪により転覆したが、市民や出身者などで三菱大夕張鉄道保存会が発足、夕張市へ保存を求めると共に修復活動開始し、12 月には夕張市により客車の転覆復



旧工事が実施された。その後当会により補修作業が本格化し、平成 13(2001)年には三菱大夕張鉄道の車両を含む空知管内の炭鉱遺産が「北海道遺産」として認定された。平成 17(2005)年には、夕張市によりシューパロダム周辺整備計画の一環として「南大夕張列車公園」整備計画が発表、住民説明会も実施されたが翌 18(2006)年には財政破綻が表面化。公園計画は事業見直しにより凍結された。平成 19(2007)年には旧南大夕張駅と保存車両が経済産業省により、近代化産業遺産として認定された。平成 27(2015)年には三菱鉱業自社発注のナハフ 1 が往年の塗装に復元された。一方、財政破綻により、夕張鉄道や三菱大夕張鉄道の S L や関連資料を保存する、石炭の歴史村・S L 館も閉鎖されたままとなっている。旧南大夕張駅については保存車両の補修に加え、補助金等を活用して周辺整備も進めているが、J R 石勝線支線も廃止となり、石炭と共に歩んだ鉄道の遺産を地域再生に活用出来るよう活動を展開します。

今後も皆様のご指導・ご支援を期待します。

主な活動内容

○保存車両公開 4 月下旬～11 月中旬(月 1 回程度の補修活動)

○汽車フェスタ 9 月中旬

○夕張の廃線跡バスツアー 7 月下旬 S L 館雪下ろしバスツアー 1 月下旬

○S L 館公開や廃線跡・産業遺産探訪などを組み合わせたシンポジウムなどの企画、実施

○ホームページ <http://www.ooyubari-rps.net/>

○FB ページもあります

会長連絡先 066-0032 千歳市北陽 3 丁目 5-10 ビレッジハウス 1-106 奥山道紀

団体名

一般社団法人
南部縦貫レールバス愛好会

〒 039-2512 青森県上北郡七戸町笹田 5 4-2

Tel : 080-3201-4158

Fax :

URL : <http://www.ogaemon.com>

Email :

担当者：星野

平成 9 年運転休止、平成 14 年に廃線となりました南部縦貫鉄道で使用されていた車輛の保存活動を行っています。

富士重工製のレールバスキハ 101・102 の 2 両とキハ 104 ディーゼルカー1 両、機関車 3 両 (D451、DC251、DB11) を旧七戸駅構内で保存を行っています。

静態保存されていた DC251 機関車のエンジン整備作業を行っていましたが、昨年復活することに成功し機関庫の外まで運転することができるようになりました。現在外装の塗装など引き続き整備を行っています。

毎年ゴールデンウィークにはレールバスに体験乗車できるイベントを開催し、秋には夕暮れ撮影会と称して日中帯から日没後までライトアップを行い撮影会を開催しております。今年の夕暮れ撮影会は未定です。皆様のお越しをお待ちしております。



団体名 七百レールファンクラブ

<https://www.facebook.com/pages/七百レールファンクラブ/1014675581876815>

七百検修庫: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢14-66

七百レールファンクラブ会長自宅: 〒033-0071

青森県上北郡六戸町大字犬落瀬字権現沢95-2

会長: 斎藤正

施設名 七百鉄道記念館

七百鉄道記念館 事務取扱方

住所: 〒336-0926

埼玉県さいたま市緑区東浦和4-23-4-101

氏名: 野田 悟

連絡先: 090-6568-2629(開館時以外は通じません)

メール: shichihyakurfc@yahoo.co.jp

平成24年3月31日限りで廃線となった十和田観光電鉄線の旧: 七百駅構内にて同社の車両の保存活動などを行っている団体です。

平成25年に旧: 七百駅周辺の住民が中心となり「七百レールファンクラブ」発足

平成26年に旧: 七百検修庫を中心とする土地・建物と車両6両を十和田観光電鉄から会員が購入

平成27年 5月31日 「七百鉄道記念館」として第一回 一般公開を実施

平成27年11月 8日 第二回 一般公開を実施

平成28年 5月29日 第三回 一般公開を実施

平成28年11月 6日 第四回 一般公開を実施

平成29年 5月28日 第五回 一般公開を実施

平成29年10月22日 第六回 一般公開を実施

平成30年 5月27日 第七回 一般公開を実施

平成30年10月21日 第八回 一般公開を実施

令和元年 5月26日 第九回 一般公開を実施

令和元年10月20日 第十回 一般公開を実施予定



町補助金にて作成した
車両解説パネル(5種)



特別企画展示の三沢駅
白樺駅舎部材等



ボランティアとして公開に協力戴いた
七百中学校の皆さんと記念撮影

今年の春の一般公開では青い森鉄道三沢駅開設125周年、2017年に解体された旧三沢駅「白樺駅舎」85周年、この春に解体された十鉄三沢駅舎55周年を記念して、特別企画として白樺駅舎の部材を利活用のために保存・所蔵されている「三プロ」のご協力を戴き、その一部を展示致しました。

開館以来、会員以外地元の方々やOBを含めた十和田観光電鉄の方々などのご協力を賜り、所蔵・展示品の充実を図ることが出来ました。また、ここ三ヶ年の一般公開に際しては地元の七百中学校からボランティア活動の一環として協力を頂いている他、「六戸町ふれあいの郷づくり事業費補助金」の交付を受けておりま

※ 個人連絡先(野田)

自宅: 048-876-0102

自宅PC: IZD01662@nifty.com

個人携帯: 090-2520-2629

個人携帯アドレス: satorunoda@docomo.ne.jp

団体名

小坂鉄道保存会

連絡先（小坂鉄道レールパーク 気付）

〒017-0202 秋田県鹿角郡小坂町小坂鉱山字古川20-9

Tel 0186-25-8890 Fax 0186-29-2002

“魅せ鉄”にも磨きをかけて！

▼ディーゼル機関車運転体験「運転士への道」
仕業点呼の締めは全員で指差喚呼！



▲冬期間は24系客車の足回り整備に集中！
キレイになった“あけぼの”は大人気



▲大正期に製造された木造貨車の塗装修繕に挑戦



▲イベントでは、みんな揃って“オモテナシ”



▲鉄道系YouTuber、スーツさんの動画にも出演

小坂鉄道保存会は結成7年目を迎え、相も変わらず“魅せ鉄”に奔走しています。昨年は念願であった「日本鉄道保存協会総会・見学会」が小坂町で開催され、各々役割を持ちながら全日程を乗り切ることができました。参加された保存協会会員の皆様には、心から感謝申し上げます。

小坂鉄道廃止から10年、線路の状況は決して良好とは言えません。高齢となったディーゼル機関車も故障が絶えず、運転体験のメニューの再検討が必要となっています。貴重なキハの修復も課題です。小坂鉄道保存会は、課題の克服と新たな目標達成に向けて、今後も活動してまいります。

くりでんを見て、ふれて、体感できるレールパーク

宮城県の北部に位置する栗原市で大正時代から運行していたのが「くりはら田園鉄道」です。旅客・貨物輸送を行った単線ローカル線で、「くりでん」の愛称で親しまれていましたが、2007年に惜しまれながら廃線となりました。

現在は、その歴史を後世に伝えていこうという趣旨に「くりはら田園鉄道公園」を整備しました。昨年には創立から100年の節目を迎え、今年からは季節ごとのイベントも開催しています。



1 くりでんミュージアム

見て、ふれて、体験できる！

旧くりはら田園鉄道の貴重な資料や工具、車両等を保存、公開し「くりでん」の魅力を全国に発信するために整備しました。

館内には、くりでんの歴史展示や沿線を再現したジオラマ、営業当時の車両の運転席で行う運転シミュレーター、くりでんの歴史をドラマ仕立てで伝えるミニシアターなど見所満載の施設です。

- 開館時間：10時～17時
(最終入館16時)
- 休館日：毎週火曜日、年末年始
- 入館料：一般（高校生以上）500円
小中学生300円
小学生未満は無料
- 運転シミュレーター料金：1回500円



GW子どもまつり



夏休みWeekスタンプラリー

2 くりでん・レールバイク乗車会

廃線を活用したアトラクション！

くりでんは、営業当時運行していたKD95で当時の雰囲気ながらに運行します。硬券切符を購入しご乗車いただけます。

レールバイクは、通常の自転車と同様にペダルを漕いで、レールの上を走行することができる乗り物です。レールの継ぎ目の「ガタンゴトン」という音を直に体感することができます。

- イベント期間：4月～11月の日曜日（※不定休あり）
- 運行区間：片道900m往復
- 乗車料金：レールバイク 1台500円（最大4人乗り）
くりでん(KD95) 小学生以上1人300円(未就学児無料)



レールバイク

くりでん

3 気動車(KD95)運転体験

営業当時のまま、くりでんを運転！

営業当時運行していたくりでん(KD95)を運転することができます。運転の際は、制服や帽子を身に着け、くりでんの運転士になっていただきます。

- 期間：4月～11月の第3土曜日
- 運転区間：片道900m往復
- 料金：初回 30,000円（講習料、テキスト代込み）
単機（2回目以降）25,000円
重連（6回目以降）40,000円



KD95運転席

団体名	真岡線SL運行協議会	〒321-4415 栃木県真岡市下籠谷4412番地 TEL 0285(82)9151 FAX 0285(82)9152
 		「SLもおか」2019秋冬・運行日程 【運行日】 10月 5日・6日・12日・13日・14日 19日・20日・22日・26日・27日 11月 2日・3日・4日・9日・10日 16日・17日・23日・24日・30日 12月 1日・7日・8日・14日・15日 21日・22日 【運行区間】 真岡鐵道 下館駅～茂木駅（41.9キロ） 【運行時間】 下り 下館駅10：35発～茂木駅12：06着 上り 茂木駅14：26発～下館駅15：56着 【運行車両】 SL C12形66号、C11形325号 PC 50系 オハ2両、オハフ1両 DL DE10 1535 1両
▲SLもおか号「C1266」(上) SLもおか号「C11325」(下)		

〔近況報告〕

◆夏の思い出作りに！ 真岡SL乗車体験ツアー開催！

・水戸線整備促進期成同盟会の主催で、水戸線沿線自治体の小学校に在籍する小学生を対象とした真岡線のSL乗車体験ツアーが開催されました。初めてSLに乗車する小学生も多く、SLの迫力を直に感じていただけました。また、現役のSL機関士からSLの機関室や列車検査の説明を受け、とても楽しんでいた様子でした。



《機関士から説明を受ける参加者》

◆第10回真岡鐵道SLフェスタ開催！

・今年も「真岡鐵道SLフェスタ」が11月下旬に開催される予定です。昨年は真岡鐵道のSL「C11」の見学ガイドや清掃体験を実施した当フェスタは、C11、C12、9600型、D51などが勢揃いし、例年賑わいを見せるSLのお祭りです。楽しいイベント盛りだくさんで、沿線の方や真岡鐵道ファンの皆様、そしてSLファンの方のお越しをお待ちしております。



《昨年度のSLフェスタの様子》

◆7月、8月にて夏休みSLイベントを実施しました！

・子どもたちの夏休み期間にあわせて、夏休みSLイベント「SL教室」、「SLガイド体験」などを開催しました。県内の方だけではなく県外からもたくさんの方にご参加頂き、SLを体験していただきました。



▲体験参加者の記念撮影
(SLガイド体験)



▲運転室にてSLの仕組みを
学ぶ参加者 (SL教室)



▲ボランティアスタッフから説
明を受ける参加者 (SL教室)

団体名	旧 NPO 法人足尾歴史館トロッコ部 あしおトロッコ館	〒321-1523 Tel : 0288-93-3203 Fax : 0288-93-3203 URL : https://www.furukawakk.co.jp/ashio Email : sgq00426@nifty.com 担当者：雑務担当 岡本憲之
-----	--------------------------------	--

NPO 足尾歴史館は、今年度から古河機械金属㈱が運営することになり、古河足尾歴史館として生まれ変わりました。よって、トロッコ部は独立しました。あたらしい名称は「あしおトロッコ」館(法人化準備中)になります。活動は、今まで通りの施設に運営会社からのご理解と支援によって同居させて頂いております。またわたらせ渓谷鐵道の足尾駅での保存車両の活動も続けていきます。

【新パンフレット】

*** 営業日時 ***

水・木・金・土・日・祝日
AM 10:00～PM3:00
冬期休館：12月～3月

*** 入場料 ***

- 大人：400円（高校生以上）
- 子供：280円（小・中学生）
- 団体：20名以上の団体・障害者手帳をお持ちの方とその介護者の方は20%割引

*** お問合せ ***

TEL.0288-25-5810（平日：TEL.0288-93-3255）

*** 交通情報 ***

通潤駅から徒歩5分・日光市内から車で40分・桐生市内から車で50分

〔案内図〕

至 観山平
国民宿舎
かじか荘へ

古川足尾歴史館

至 イロハ坂

至 松木溪谷

至 日光市内

至 鷲子

至 綱山観光

足尾パイパス

田元

日足トンネル

清濁IC

古川掛水倶楽部

鉢部 足尾の迎賓館

古川掛水倶楽部

◆開館日：土・日・祝日
AM10:00～15:30
(14:45受付終了)

◆冬期休館：12月～3月

◆入場料 大人：500円（高校生以上）
子供：300円（小・中学生）

※20名以上の団体・障害者手帳をお持ちの方とその介護者の方は20%割引

足尾駅から徒歩2分

お問合せ 0288-93-2015(平日0288-93-3255)



すべては鉱山から始まった

古河足尾歴史館



URL <https://www.furukawakk.co.jp/ashio/ashio/>



古河足尾歴史館

当館歴史館は2005年4月にNPO法人足尾歴史館としてオープンしましたが、2019年4月からはその運営を古河機械金属(株)に移管しました。

主に、旧足尾鉱業所等のジオラマ、古河創業家の写真や銅像、古河の安全第一運動のさきがけとなった小田川全支の写真および関連品の展示、鉱山採掘で蓄積された技術を生かして開発されたさまざまな種など、日本近代史の黎明期を象徴する興味深いものを多数展示しています。

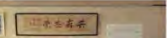
足尾鉱業所 ジオラマ

足尾鉱業所のジオラマを展示しています。(星新一氏作)足尾鉱業所は辰野金吾(辰野吾郎建築事務所)により設計されました。辰野金吾は明治政府が招請した建築家ジョサイア・コンドルから学び日本各地に「辰野式」と言われた重厚な建物を設計しました。東京駅、日本銀行、奈良ホテルなど代表的な作品です。足尾鉱業所は現存していませんが、仮に現存していたら、貴重な歴史的資産建造物として重要文化財に指定されていたであろうと考えられます。

您も、開港水路沿河、破産管財会社10館所のジオラマを展示しております。

古河創業者

古河創業者である古河市兵衛他、歴代社長の写真が展示しています。また、古河市兵衛の銅像や、古河市兵衛の片腕として大活躍した木村長村の胸像、さらに、古河市兵衛が愛用していたキルペ、筆置の手紙、屏風などを展示しています（木村長村・子息他、木村家蔵品）を展示しています。これら歴史的価値のある貴重品を展示しているのは、日本において本館が唯一とされています。



古河家と交流のあった、フランス料理家の関塚喜平は古河家にさまざまな品を展示しています。関塚喜平は古河家にまづけるを受け、当時では珍しい本格的なフランス料理屋を足尾で営んでいた。関塚喜平は第5代代理総理大臣の石橋湛山から料理の腕を認められ、石橋湛山直筆の「共存共栄」など展示しています。

トロッココーナー (あしおトロッコ館主催)

「トロッコ」を中心とした微小な鉄道の実物から模型資料に至るまで産業遺産として保存するが国唯一の民間団体です。河内足尾歴史展示館の一角に模型と資料展示室があります。同館の野外展示場には、かつて足尾川を走っていた唯一の長大規格「ガソリンカー」を完全復元した車両を毎月第一・三日(臨時運行もあり)に走らせる他、全国各地から集めて来た貴重なトロッコ類を展示・保存しています。また、わたらせ渓谷鐵道の足尾車庫内に当会が管理する足尾線に關する鉄道資料が動態復元展示され、年に3回は公開開放しております。

これからもよろしくお願いします。

団体名

鹿島鉄道保存会

<鹿島鉄道記念館>

〒113-0033

東京都文京区本郷 5-25-16 石川ビル 11 階 (株)バレア内

TEL 03-5802-2755 FAX 03-3818-2700

URL <https://www.facebook.com/kashitetsu>

E-mail info@kashitetsu.com 代表者: 加藤

鹿島鉄道保存会は、平成19年3月末をもって営業廃止した鹿島鉄道線(石岡～銚子間27.2km)の物品・資料の収集や茨城県小美玉市にある私設・鹿島鉄道記念館(普段は非公開)の保存展示など運営サポートを行っている任意団体です。旧かしてつ応援団をはじめとする存続運動関係者や鹿島鉄道応援ホームページメンバーなどの有志約20名で構成され、年齢や職業も多岐に渡り「鹿島鉄道が心の底から好きだった」という共通認識でつながっています。



KR-501 平成元年デビューから 30 年を迎えた



KR-501 車内には応援団のメッセージが残る



2018 年 12 月に実施した特別公開

【保存車両】

キハ714 (昭和28年新潟鉄工所 元夕張鉄道キハ251)

KR-501 (平成元年新潟鉄工所 鹿島鉄道自社発注車)

キハ431 (昭和32年東急車輛 元加越能鉄道キハ125)

【保存建物】

玉里駅上りホーム待合室

ヘッドマーク、駅名板、信号機その他多くの鹿島鉄道関連グッズ、存続運動資料等を収蔵

【活動報告】

平成21年3月の記念館完成後、非定期で鉄道ファン向けの一般公開(事前予約制)、見学団体受け入れや自治体とのイベント共催による特別公開を実施しています。

平成30年度は、清掃活動のほか、土浦一高鉄研OB会向けの特別公開を実施しました。

【今後について】

現在、主力メンバーが多忙で目立った活動はできませんが、鹿島鉄道や存続運動が忘れ去られてしまわぬよう、今後も保存活動を維持継続するとともに、一般公開を開催したいと考えています。

団体名

鉾田駅保存会

〒311-1528 茨城県鉾田市当間 220 ほっとパーク鉾田内

[事務局]〒310-0001 茨城県水戸市上河内町 162

Tel /Fax : 029-239-6735 (携帯 : 090-4387-8455)

URL : <https://hokotaeki.jp/>

Email : hokota-station@rail.nifty.jp

担当者 : 川津 重夫 (事務局(理事))



当地では珍しい雪のほっとパーク鉾田展示線 (2011-01-16)

2007年3月末で廃止になった鹿島鉄道の車両2両(キハ601・KR-505)の保存活動を行っています。

2両が展示されている、茨城県鉾田市の市営温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、月例の定期車両公開イベントと、車両の保全・補修作業を実施しています。

保存活動を行っている鹿島鉄道の気動車、キハ601とKR-505は2008年1月に当会が鹿島鉄道殿から購入したものでした。

当初、鉾田駅保存会は、賃借した鉾田駅跡地において2両の気動車の保存活動を実施していました。その後、紆余曲折があり、鉾田市議会の議決により、鉾田市の温泉施設『ほっとパーク鉾田』において、2両を保存することになり、当会は2両の気動車を鉾田市に寄付し、鉾田駅の保存車両は2009年12月24日に、『ほっとパーク鉾田』に移送されました。今年の12月で移転からちょうど10年となります。

2011年の東日本大震災で路盤の液状化により道床の破壊と車両の傾斜・床下機器損傷の被害を受けました。車輛を一時的に移動して道床の復旧が行われ、2011年12月に元の道床に復帰し、2012年3月より当会は公開イベントを再開しました。以後4～12月の第4日曜日の定期車両公開イベントを継続実施しています。



キハ601の塗装作業



KR-505の補修作業

定期公開では活動の周知と、鹿島鉄道を知らない世代への記憶継承を目的に下記の企画を行っています。

- (1) 鹿島鉄道関連資料・書籍の展示
- (2) 保存活動内容の展示・広報
- (3) KR-505車内でのプラレール遊び
- (4) キハ601車内での鉄道模型展示・運転(N・HOゲージ、鉾田駅・常陸小川駅のジオラマ等)
- (5) 5インチ乗用鉄道の体験乗車(1.6m×1.2mオーバル)

また、鉾田市や商工会主催の『鉾田うまかつフェスタ』『ほこたマラソン』『鉾田花火大会』『ほこたいっぴんマルシェ』や、『石岡市商工祭』などの地域行事に参加・協力し、広報活動を行っています。

本年度の今後の定期公開日は、10月27日(日)・11月24日(日)・12月22日(日)の10時～15時です。

臨時公開は、ほこたマラソン協賛プチ公開12月15日(日)12時頃(給水ボランティア終了後)～14時

鉾田線廃線13周年特別車両公開2020年3月29日(日)10時～15時です。

団体名

ザ・ヒロサワ・シティ (レールパーク)

〒308-0811 茨城県筑西市茂田 ザ・ヒロサワ・シティ
広沢商事株式会社 内
Tel : 0296-21-1234 Fax: 0296-24-7837
URL : http://shimodate.jp/rail_top.html
Email : honten@hirosawa-shoji.co.jp
担当者: 大久保、野口



【D51-1116 譲渡について】

千葉県白井市に保存されていた D51-1116 は、専用の車庫に保管されていたことから保存状態も良好で、レールパーク 10 番目の保存車両としてお迎えすることが決まりました。

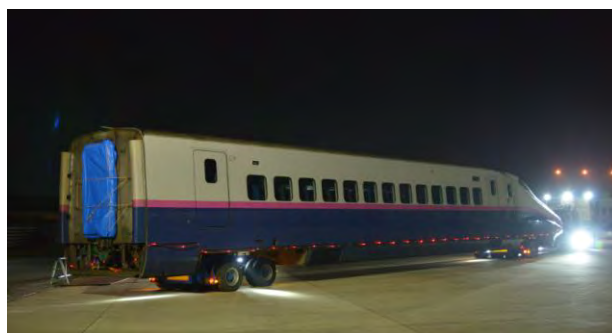
2018 年 10 月 8 日(日) 深夜、国道 16 号線～国道 6 号線～国道 294 号線を輸送され、9 日(月) 早朝にザ・ヒロサワ・シティに到着し据え付け作業が行われました。

その後、様々な箇所について修復作業を続けており、間もなく一般公開を行うべく取り組んでいます。

【E224-127 譲渡について】

新幹線車両の譲渡については前例も少ないことから、数回に分けて、詳細な作業手順の詰めを行いました。

この確認事項に従い、2018 年 11 月 7 日(水)の深夜に新潟新幹線車両センターを出発した新幹線車両は、国道 49 号線～国道 4 号線～国道 50 号線を、3 泊 4 日掛けて陸送され、10 日(土) 早朝にザ・ヒロサワ・シティに到着し据え付け作業が行われました。現在、完全公開に向けて車内の電気工事などを進めています。



この 3 枚の写真は、本年 3 月 9 日(土) にザ・ヒロサワ・シティで開催された「梅まつり」での写真です。左側から E224-127 の運転席に座りご機嫌でポーズを決めるお子様、EF81-138 の運転席に座り運転手気分になるご兄弟を撮影するお母さん、D51 と EF81 の間でポーズ決めるお子様など 2,000 人を超える来場者がありました。特に、新幹線の運転席は 90 分待ちの長蛇の列ができていました。今後も、レールパークの全体の整備作業を進め、多くの皆さまが楽しめる施設の完成に向けて取り組んでまいります。

日本鉄道保存協会の関係者の皆様については、担当者宛てにメール等で事前にご連絡を頂ければ、車両内部の見学ができるように手配させていただきます。ただし、スタッフの都合から希望の日時に対応できないことがありますのでご了承下さい。

団体名	一般財団法人 碓氷峠交流記念財団 碓氷峠鉄道文化むら	〒379-0301 群馬県安中市松井田町横川 407-16 Tel : 027-380-4163 FAX : 027-380-4111 URL : http://www.usuitouge.com/bunkamura/ Email : bunkamura@usuitouge.com 担当者：事務局長 佐藤 勝彦
-----	-------------------------------	---

碓氷峠鉄道文化むらのある松井田町は群馬県の南西部に位置し、碓氷峠をはさんで長野県の軽井沢町と接しています。峠のシェルパE F 6 3形機関車の基地であった旧横川機関区の跡地で、東京ドーム3.5個分のスペースがあります。

峠の鉄道の歴史は古く、明治の初めに東京～京都間を碓氷峠越えの中山道案で結ぶと決定されましたが、明治19年にこの峠が難関のため東海道本線経路に変更された経緯のある所です。しかし、明治26年には日本で初のアプト式鉄道の採用で開通しましたが、11.2kmで標高差553mもあり、トンネル区間が多いため当時蒸気機関車の煙害防止のため、明治45年にこれまた日本初の幹線電化区間となりました。日本の鉄道技術の発展はこの峠から生まれたと言っても過言ではない線区でした。

時移り平成9年、長野オリンピックの開催を控えて、同年10月1日の長野新幹線の開業と同時に併行在来線として104年の歴史にピリオドを打ちました。旧機関区周辺は鉄道の街として発展してきましたが、廃止に伴う過疎化防止と地域経済の核として、旧松井田町が群馬県・JR東日本の協力により平成11年4月にオープンした鉄道の広場です。今年で開園20年目を迎えました。

信越本線横川～軽井沢間（通称、碓氷線）は廃線後早20年が経とうとしており、廃線間際の熱気も潮が引くように静かになってしまいましたが、この廃線敷を使い近代化遺産第1号に指定されている、丸山変電所跡を通り峠の湯までの2.6kmを3月～11月の間の土日祝日と8月の毎日、トロッコ列車が運行しています。

また日本で唯一のEF63形電気機関車の運転体験も2,770人が受講されています。2018年度は61名の受講者（男性60名・女性1名）があり、のべ3,187回の体験を楽しめました。また、通算500回以上運転された方が5名おります。2019年度も引き続き多くのお客様が受講され、運転体験を楽しまれています。

EF63 25号機の台車・モーター整備が安中市や安中市が行ったクラウドファンディング、碓氷峠鉄道文化むらへの寄附金等で、先日行われました。屋外に展示されている車両や動態保存しているEF63形電気機関車の保存方法や修繕方法など、貴重な車両をどのように後世に残していくかが課題となっています。



運転体験で使用している EF63 形電気機関車



トロッコ列車シェルパくん



屋外に展示されている車両



鉄道展示館と189系あさま号

団体名	デハ3499号車保存会	〒331-0802 Tel：080-3013-5871 URL：http://www.mc-tc.net/3499 Email：moha565_deha3499@mc-tc.net 担当者：日暮
-----	-------------	---

私どもは、1936年製元東急電鉄デハ3450型3499号車を2010年に取得、群馬県下で保存修復作業を行なっています。



■東急旧3000系列引退30周年記念イベントを開催しました

1989年3月18日に東急目蒲線から3000系列「緑の電車」が引退してから30周年を迎えたことを記念し、去る3月17日に見学・撮影会を実施しました。

防犯上から通常取り外してある前照灯・尾灯を取り付け、車内には往年のデハ3499走行音を流しての撮影会は好天に恵まれ、およそ20名ほどの来場者を以って和気あいあいと好い時間を過ごすことができました。

近隣に保存されている小田急デハ1801号（国鉄モハ63型割当車）についても、同車所有者様とデハ1801保存会様とのご厚意で併せて見学させていただき、お互いの刺激にもなりました。

■東急5000系「青ガエル」の保存に向けての活動と一般社団法人設立について

現在、松本電気鉄道（アルピコ交通）の新村車庫に保管されている元東急5000系（初代）について、新たに一般社団法人を設立の上譲受け、現在デハ3499が設置されている群馬県赤城山麓の敷地内に移設し保存すべく諸活動を行なっています。

概要は下記の通りです。

- ・法人名称：一般社団法人 電鉄文化保存会
- ・譲受対象：松本電気鉄道（アルピコ交通）

モハ5005+クハ5006

（旧東急デハ5055+デハ5048 以下東急車番で記載）

- ・保存先：群馬県前橋市富士見町皆沢315-16



現在、デハ3499号車保存会は本プロジェクトに対し全面的に協力を行なっています。

また5000系電車の移設終了後、本年度中を目処にデハ3499号車保存会は一般社団法人 電鉄文化保存会に資産一切を譲渡し解散、以後電鉄文化保存会がデハ3499、デハ5055、デハ5048の3両について一元的に管理、修復保存を図って行く方針としています。

今回の譲受対象車のうち特にデハ5055号は、床下機器等まで含めて原型を保っている現存最後の東急デハ5000型となり、産業文化財としての価値は極めて高いものと考えます。

皆様のご理解と諸支援につきまして、重ねてお願い申し上げます。

団体名

**日本工業大学
工業技術博物館**

〒 345-8501
Tel : 0480-34-4111 Fax : 0480-33-7570
URL : <http://www.nit.ac.jp/>
Email : museum@nit.ac.jp
担当者 : 丹治 明



製造されて 128 年、大学キャンパスを疾走する 2109 号蒸気機関車の勇姿

1993 年 9 月に大井川鉄道より本学に寄贈され、年に 2 度の洗缶作業を行い、2007 年度にボイラー煙管 172 本とステー管 16 本を交換して、動態保存を実施している。2012 年度の右側シリンダーの補修作業後の有火運転も無事に再開している。

2109 号蒸気機関車を、原則として 8 月と 12 月を除く毎月第 3 土曜日に定期有火運転し、一般に公開している。上記の写真にキャンパス内で運転中の様子を示す。

このほかにも学園祭等のイベント時にも有火運転を行っており、運転予定日時等の詳細は、当博物館事務室に問い合わせ下さい。

また、急な都合により運転内容・日時を変更させて頂く場合もあるので、ご容赦願います。

2019(令和元)年度の有火運転実績

運転日	運転時刻	備 考
5 月 18 日(土)	13 : 00~15 : 00	定期運転
6 月 22 日(土)	13 : 00~15 : 00	定期運転
7 月 13 日(土)	13 : 00~15 : 00	オープンキャンパス
9 月 8 日(土)	13 : 00~15 : 00	オープンキャンパス

団体名

秩父鉄道株式会社

〒360-0033 熊谷市曙町一丁目1番地
Tel : 048-523-3337 Fax : 048-526-0551
URL : <http://chichibu-railway.co.jp>
Email : sraryo@chichibu-railway.co.jp
担当者：木村 壮史



秩父鉄道 SL パレオエクスプレス

SL パレオエクスプレスは通年3月下旬から12月初めまで、土曜、祝祭日を中心に運行しており、今年度も12月8日まで運行しております。今年の運行終了後、牽引する蒸気機関車C58363号機の全般検査に伴い、2020年度のSL運転予定はありませんのでご了承下さいませ。お願いいたします。なお、2021年度のSL運転計画につきましては、決定次第、秩父鉄道ホームページ(<http://www.chichibu-railway.co.jp>)等でご案内いたします。

「ちちてつサンクスフェスタ 2019～秩父鉄道創立 120 周年記念～」

秩父鉄道創立 120 周年を記念いたしまして、「ちちてつサンクスフェスタ 2019～秩父鉄道創立 120 周年記念～」を開催いたします。開催日時は 2019 年 11 月 2 日(土)10 時から三峰口駅周辺で行います。詳しい内容につきましては、秩父鉄道ホームページ(<http://www.chichibu-railway.co.jp>)にてご確認くださいませお願いいたします。

団体名	東日本旅客鉄道株式会社 公益財団法人東日本鉄道文化財団	〒330-0852 埼玉県さいたま市大宮区大成町3丁目47番 Tel : 048-651-0088 Fax : 048-651-0570 URL : http://www.railway-museum.jp/
-----	--------------------------------	---

ED40形式10号電気機関車およびED16形式1号電気機関車が国の重要文化財に指定されました！

鉄道博物館で展示しているED40形式10号電気機関車および青梅鉄道公園で展示しているED16形式1号電気機関車が、2018年10月31日付の官報（号外第239号：文部科学省告示第二百八号）により、国の重要文化財（美術工芸品）に指定されました。

1. ED40形式10号電気機関車の概要

- 製造年 1921（大正10）年
- 製造所 鉄道省大宮工場
- 全 長 9.8m
- 特 徴 信越本線横川～軽井沢間（現在は廃止）の急勾配区間用の電気機関車として、1919（大正8）年から製造されたED40形式電気機関車の10号機で、国鉄最初の本線用国産電気機関車。



2. ED16形式1号電気機関車の概要

- 製造年 1931（昭和6）年
- 製造所 三菱造船株式会社神戸造船所
- 全 長 15.4m
- 特 徴 鉄道省が民間と共同設計し、小型の勾配線・貨物列車用電気機関車として1931（昭和6）年から製造され、後の電気機関車国産化の基礎を築いたED16形式電気機関車の1号機。



【参考】当財団で収蔵している上記の他の国指定重要文化財

- 一号機関車（150形式） 1997年指定
- 鉄道古文書 2003年指定
- 一号御料車（初代） 2003年指定
- ナデ6141号電車 2017年指定

団体名	一般財団法人 東武博物館	〒131-0032 Tel : 03-3614-8811 Fax : 03-3614-8814 URL : http://www.tobu.co.jp/museum Email : museum-gakugei@group.tobu.co.jp 担当者：山田 貴子
-----	--------------	---

◆概要

東武鉄道の創立90周年を記念して、1989年5月20日にオープンしました。身近な交通機関である鉄道やバスに親しみ理解していただけるよう、館内を8つのコーナーに分けて構成し、東武鉄道の歴史や文化・役割を紹介しています。郷愁を誘うダイナミックな蒸気機関車をはじめ、実物車両や記念物などの貴重な資料を展示している他、交通のしくみを実際に見て、触れて、体感できるシミュレータや実物機器も設置しています。また、博物館の真上を走行する車両を至近距離から観察できる立地を活かしたコーナーもあり、リアルタイム感覚で楽しめる体験型のミュージアムです。

◆保存車両

【静態保存】

東武鉄道最初の蒸気機関車5号・6号、電気機関車ED101号、電車デハ1形5号、戦後最初の新造特急電車5700系の他、さまざまなジャンルの車両12両を展示しています。



5号蒸気機関車



ED101号電気機関車



デハ1形5号電車



特急車5700系5701号

【動態保存】

1963年製8000系8111編成(6両)を運転可能な状態で保存し、団体用としてご利用いただいています。またC11 207号蒸気機関車・14系客車4両・12系客車2両・ヨ8000形車掌車2両も所有し、2017年8月10日から鬼怒川線でSL大樹として営業運転をおこなっており、今年8月に2周年を迎えました。



8000系8111編成



2周年記念ヘッドマークをつけたSL大樹

◆その他

昨年、日本鉄道保存協会より新たに1947年製C11形蒸気機関車を譲り受けました。2020年冬の復元完成と、動態保存車両としての営業運転を目指し、東武鉄道が修復に取り組んでいます。



C11形復元予定機(2019年1月撮影)

団体名	公益財団法人 日本ナショナルトラスト  Japan National Trust	〒102-0083 東京都千代田区麹町 4-5 海事センタービル TEL 03-6380-8511 FAX 03-3237-1190
-----	--	---

トラストトレインは、日本で最初に市民の募金により取得し、保存・活用している歴史的車両です。1987年7月25日から大井川鐵道株式会社の協力を得て運行を開始し、多くの方々からの寄付金やボランティア活動に支えられ20年以上走り続けてきました。(公財)日本ナショナルトラストでは、今後もこれらの鉄道にかかわる文化遺産を末永く後世へ継承していくため、活動を続けてまいります。



○2019年「トラストトレイン」運行日

【運転日】4/13、6/1、7/6、8/24、9/28の計5回 ※8/24は「親子ボランティア」

【区間】大井川鐵道 新金谷 — 千頭間 (37.2km)

【保有車両の編成】

スハフ 43 形 2・3 号客車、オハニ 36 形 7 号荷物合造客車、C12 形タンク式蒸気機関車

※C12 は現在休車中

【近況報告】

一昨年度、トラストトレインは運行開始から30周年を迎え、また昨年度、(公財)日本ナショナルトラストは設立50周年を迎えました。この節目にあたり、ボランティアでC12形タンク式蒸気機関車用のヘッドマークや、トラストトレインを知っていただくためのポスターなどを作成しました。

多くの方にトラストトレインに乗っていただき、さらにはボランティア活動に参加していただけるよう、がんばっています！



ボランティアでヘッドマーク・サボ・ポスターを作成しました！

◆ボランティア募集◆

トラストトレインでは、8月の親子ボランティアも含め、年に5回ボランティアによる運行を行っています。運行日にはパンフレット配りや客車内の清掃にご協力いただきます。ご興味がありましたら、(公財)日本ナショナルトラストまでお問い合わせください。

※来年の運行日は決まり次第、HP等でお知らせいたします。

団体名 公益財団法人 交通協力会

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 903 号

電話 03-6269-9808 FAX 03-6269-9809

会長兼理事長 上野 文雄

沿革

当会の源流は、大戦中の 1943(昭和 18)年に鉄道省が設立した財団法人陸運協力会に遡ります。その頃、戦時経済のもとで紙が統制物資となり、いわゆる業界紙誌の発行が困難に陥っていました。陸運協力会は、これまで民間業者が発行していた鉄道関係の業界紙を統合して同年 4 月、日刊紙『陸輸新報』の刊行を開始し、各種雑誌も戦時下の困難を乗り越えて発刊しました。

戦後は名称を財団法人交通協力会と改め、『陸輸新報』も『交通新聞』と改称し、『交通年鑑』と『交通技術』誌を発刊、1949(昭和 24)年の公共企業体日本国有鉄道の発足とともに『国有鉄道』・『国鉄線』の両誌を発刊しました。これらはいずれも国鉄の機関誌として、1987 年の国鉄改革まで継続発行されました。この間、鉄道創業 80 周年記念事業として国鉄が編纂した『鉄道辞典』や、100 周年記念に国鉄が編纂した『日本国有鉄道百年史』も、同会が刊行しました。

1987(昭和 62)年の国鉄改革にあたり、新聞・雑誌の刊行や書籍出版事業は新たに発足した株式会社交通新聞社に引き継ぎ、当会は交通図書賞の選定表彰など、非営利の公益事業に専念することとなり、2011(平成 23)年には公益財団法人交通協力会として新たな出発をしました。

電子図書館「戦中戦後の交通と国有鉄道」

交通関係の年次刊行物や、旧国鉄の機関誌類をデジタル版として復刻し、電子図書館に収蔵しています。既に『交通年鑑』・『日本国有鉄道監査報告書』・『国有鉄道』・『国鉄線』・『交通技術』・『鉄道辞典』を収蔵し、今後『日本国有鉄道百年史』などを収蔵する予定です。

当会ホームページ <http://transport.or.jp> の電子図書館にアクセスし、ID・パスワードを入手すると、無料で閲覧することができます。

『鉄道百五十年史』編纂事業

わが国の鉄道は 2022 年 10 月に創業 150 年を迎えます。『日本鉄道史』、『日本国有鉄道百年史』に続く正史編纂の好機ですが、鉄道省も日本国有鉄道も存在しない現在、編纂の主体や、旧国鉄時代の資料発掘など困難な課題もあります。当会は 2012 年に鉄道史資料調査センターを設置し、新しい鉄道史編纂に備えて調査・研究活動を進め、2015 年 11 月からは当会が事務局となって、国交省、鉄道・運輸機構、旧国鉄承継法人、民鉄協会などが参加する「鉄道史に関する懇話会」を発足させて審議を重ねました。その結果、総事業費 3 億余円をかけて、国鉄・JR だけでなく民営・公営鉄道を含む鉄道 150 年の総合史(全 5 巻および資料編 1 巻)を編纂し、2022 年度に刊行することが決まり、2017 年 4 月、東京大学名誉教授原朗先生を委員長とする『鉄道百五十年史』編集委員会が発足しました。当会は編集委員会の事務局を務めるとともに、完成した『鉄道百五十年史』を当会の名で出版することになります。

編集委員会は 2 年間にわたって精力的な議論を重ね、本年春、全 5 巻の詳細な記述内容を確認しました。現在は、各巻 2 名の編集委員(経営史、技術史の専門家各 1 名)計 10 名のほか、約 60 名の分担執筆者が加わって、資料に基づく具体的な執筆の段階にはいっています。巻別の内容は、第 1 巻「創業から国有鉄道の誕生まで」、第 2 巻「帝国の鉄道の形成・発展・崩壊」、第 3 巻「復興期から高度経済成長期の鉄道」、第 4 巻「交通市場の変容と国鉄の経営危機」、第 5 巻「JR と民鉄の時代」となっており、1949 年の日本国有鉄道発足から 1987 年の国鉄改革までの約 40 年間に 2 巻を充てて、この時代に特に重点を置いた構成になっています。全巻にわたって旧国鉄・JR だけでなく民公営鉄道の動向にも目を配り、また技術史にも出来るだけ多くのスペースを充てるほか、グローバルな視点から日本の鉄道の発展をとらえることを目指しています。

3 億円をこえる事業費は、JR 各社のほか民鉄など鉄道事業者、鉄道と関係の深い諸団体や企業などからの寄付で賄い、文字通りわが国鉄道関係者の総力を結集した事業となっています。

団体名	「横浜市電 1156 号保存会」 (神奈川新聞社)	〒231-8445 Tel : 090-9015-3707 / 090-8036-2383 Email : yokohamashiden1156@gmail.com 担当者：齊藤 大起（さいとう ひろき） [ウェブサイトは準備中]
-----	--------------------------------------	--

■団体の趣旨

横浜市港南・磯子区の久良岐（くらぎ）公園に展示されている「横浜市電 1156 号」を修復・維持するとともに、毎月 1 回、車内を公開するイベントを開催しています。1156 号は 1952 年に製造され、横浜市電が 1972 年に全廃されるまで走り続けました。代表的な形式だった 1150 号型の最後の現存車両でもあり、貴重な存在といえます。車両を保存するだけでなく、電停や架線など周囲の情景も再現し、往時を知る人たちへの聞き取り活動も並行して続けながら、「街に市電が走っていた頃」を伝える「よすが」を目指しています。



▲輝きを取り戻した現在の 1156 号



▲照明を点灯した夕方の姿

■保存の経緯

2010 年末、神奈川新聞の記者（齊藤）が、荒廃していた 1156 号が解体されるとの情報を聞きつけ、管理当局の横浜市に修復など保存活動を申し出たことがきっかけです。

当時は窓ガラスやドア、前照灯、尾灯、座席などの部品・機器類が全て失われ、とても哀れな姿になっていました。40 年近くにわたる屋外展示で風雨にさらされ劣化したことに加え、悪意ある人たちによる破壊、盗難などがその理由です。

時を同じくして、公園の近くに本社のある塗装業大手「サカクラ」が、地域貢献の一環でボランティアによる修復作業に協力してくれることになり、横浜市環境創造局、サカクラ、神奈川新聞社の 3 者で 1156 号の修復・保存を進めていくための覚書を締結しました。

修復作業は足場を組み、2 カ月を費やす大がかりなもので、失われていた窓ガラスやドアなどを極力再現。前後のライトや室内灯も点灯可能としました。座席は相模鉄道から寄贈していただきました。

さらに 2014 年には同局が車両周辺を大規模に改修し、擬宝珠のような飾り「ポルトップ」を載せた架線柱や、架線、それに電照式の電停標識も新調しました。道路から発掘された市電のレールを車両の前後に埋め込むことで、わずかながら路線の“延伸”も実現しました。

夕方には車両や電停などに明かりがともり「まるで現役時代のような」との声をいただいています。



■横浜市電とは

1904（明治 37）年、民営の横浜電気鉄道として横浜市内に開業した路面電車。軌間 1372 ミリ。昭和 30 年代の最盛期には総延長 52 キロの路線を運行し、年間に 1 億 2 千万人を輸送したものの、道路の渋滞や国鉄根岸線の開業などの影響を受け、1966 年以降、順次廃止が進み、1972 年 3 月 31 日に全ての路線がバスに置き換えられ、営業を終えた。他事業者への譲渡車両はなく、現存するのは横浜市磯子区にある「市電保存館」の 7 両のほか、市内に 4 両が残るのみ。

◀窓ガラスやドア、ライト、部品などが全て失われ、荒れ果てていた 2011 年当時の 1156 号

団体名	公益社団法人 横浜歴史資産調査会 (ヨコハマ ヘリテージ)	〒 231-0012 横浜市中区相生町 3 丁目 6 1 泰生ビル 4 0 5 号室 Tel/Fax 045-651-1730 URL : http://www.yokohama-heritage.or.jp/ Email : yh-info@yokohama-heritage.or.jp
-----	----------------------------------	--

公益社団法人横浜歴史資産調査会（ヨコハマ ヘリテージ）は、内閣府認定の公益法人で歴史的資産の調査、保存、取得、管理、公開他の事業をおこなっております。団体の前身である横浜市歴史的資産調査会（横浜市都市デザイン室内の委員会組織）は昭和 6 3 年に発足。「歴史を生かしたまちづくり」を旗印に横浜市と両輪で事業を展開し、横浜らしい都市景観形成に努めてきました。

平成 2 1 年に委員会組織から一般社団法人（神奈川県認定）、平成 2 5 年から公益社団法人になり、横浜だけではなく全国で事業展開が出来るようになりました。例えば絹貿易で繁栄した横浜と関係の深い東北や甲信越、北陸等の絹の町と連携したシルクロードネットワークを毎年開催。絹文化で栄えた千曲市稲荷山宿（国重要伝統的建造物群保存地区）にある町家の保存に向けた調査も行っています。

横浜市内では、山手の西洋館、関内地区の近代建築、郊外の茅葺民家の調査他や野毛地区にある都橋商店街ビル（市登録歴史的建築物）を取得保存しています。また、近代化遺産としての鉄道遺産の調査も行っています。市内の東海道本線、横須賀線、鶴見線、京急線を対象に調査隊を編成し沿線を踏破。さらに京急線の金沢八景駅に隣接する旧湘南電気鉄道瀬戸変電所の現況調査や建物耐震、振動調査を実施。将来に向けた保存活用を推進しています。

2 0 2 2 年には鉄道開通 1 5 0 周年を迎えます。横浜は新橋と並び我が国の鉄道発祥の地であります。この歴史を大切に事業展開いたします。



旧湘南電鉄瀬戸変電所（昭和 4 年・1 9 2 9）外観



変電所の内部 大空間が広がっている



現・霞橋
旧新鶴見操車場跨線橋を移築保存



東海道本線横浜駅 内海川跨線人道橋
(昭和 5 年・1 9 3 0)



東海道本線 和倉橋梁 保土谷―戸塚
(明治 2 0 年・1 9 3 0)

団体名	新潟市新津鉄道資料館	〒956-0816 新潟県新潟市秋葉区新津東町 2-5-6 TEL 0250 (24) 5700 FAX 0250 (25) 7808 E-mail : railwaymuseum@city.niigata.lg.jp URL : http://www.ncnrm.com/ 担当者：加藤 裕之
-----	------------	--

◆新津鉄道資料館概要

昭和58年、旧新津市が新津市鉄道資料館をオープンしました。平成10年4月、旧国鉄から鉄道職員研修所「新津鉄道学園」を買収して改修し、2代目新津鉄道資料館としてオープンしました。平成17年に新潟市との広域合併により「新潟市新津鉄道資料館」と改名され、平成26年7月にリニューアルオープンしました。200系新幹線、C57形19号機蒸気機関車、485系特急形電車、DD14形液体式ディーゼル機関車、E4系新幹線、115系電車、新幹線確認車GA-100を静態保存しています。新潟・新津地域の鉄道を地元と共に最大限活用する施設として、鉄道産業を「鉄道文化」として発信していきます。



200系新幹線・SLC5719

◆施設概要

1. 位置 新潟市秋葉区新津東町2-5-6
2. 交通 信越本線新津駅下車バス5分。磐越自動車道新津ICより車で2分。
3. 建物 鉄筋2階建、延べ1、764㎡（屋外展示場除く）
5. 展示品 新潟・新津ゆかりの鉄道資料約800点
6. 特色 実物車両7両展示、鉄道運転シミュレータ、ミニSL（D51形1/5スケール）など。

◆令和元年度事業

- ① 7月13日～9月2日 特別展「鉄道で旅する新潟—鉄道旅行と観光列車—」
人々の移動手段としての鉄道の変化とともに、県内各地の観光列車の今昔を紹介しました。
- ② 7月13日～14日 サンクスフェア2019 新津鉄道資料館を会場に鉄道祭を実施しました。
- ③ 8月 特別展記念講演会
JR東日本新潟支社車両課長 大石雅広氏お迎えし、管内の観光列車などについてお話いただきました。
- ④ まちなか鉄道資料館
新津商店街に新津鉄道資料館所蔵大型資料を設置・展示しています。（C57動輪・踏切警報機 ほか）
- ⑤ 巡回バス事業 新津駅東口～新津鉄道資料館～新津美術館～新津駅東口
- ⑥ 鉄道模型走行会 新潟市内の鉄道模型愛好団体と共催し、年5回開催。
- ⑦ 4月～10月 土日・祝日を中心にミニSL D51形（1/5スケール）を運行。
- ⑧ その他 鉄道七夕、鉄道書初め、鉄道友の会新潟支部展示、実物車両車内公開 ほか

◆実物車両展示



E4系新幹線と115系電車



新幹線確認車 GA-100



DD14形機関車と485系電車



鉄道の仕組みコーナー



D51形ミニSL「にいつきてきち号」（1/5スケール）

団体名	上松町 赤沢森林鉄道 (経済産業省「近代化産業遺産群」一部認定) (文化庁「日本遺産(Japan Heritage)」認定)	〒399-5603 長野県木曽郡上松町駅前通り 2-13 Tel : 0264-52-4804 Fax : 0264-52-1038 URL : https://kiso-hinoki.jp E-mail : syoukan@town.agematsu.nagano.jp 担当者：藤原 真
-----	--	--

**2019 年、赤沢森林鉄道は、
次の日程で運行しています。**

○2019 年度運行日程

今シーズンは 4 月 27 日から 11 月 7 日まで
軌道整備日を除いて毎日運行しています。

【運行時間】

土曜・日曜・祝日・夏季及び紅葉シーズン
 9 : 30 から 15 : 30 の 30 分毎に 1 便運行。
 ※夏季イベント期には 9 : 00 便を増発
 ※上記以外の平日は 10 : 00 から 15 : 00
 までの 1 時間毎に 1 便運行。

【乗車料金】

通常時：大人（中学生以上）800 円 小人（4 才から小学生）500 円
 夏季イベント期：大人（中学生以上）1,000 円
 小人（4 才から小学生）700 円

} ※イベント参加料込み

【運行区間】

森林鉄道記念館前から丸山渡停車場 往復約 2.2 k m 約 25 分

【保存車両 S L ボールドウィン】



【赤沢森林鉄道 A F T - 0 1】



森林鉄道 理髪車 散髪体験開催！

木曽森林管理署・木曽保健所・B B つばめ様のご協力のもと
 7 月 27 日に人数限定で散髪車を使って散髪体験が
 行なわれました。(尚、参加費は理髪車のの保存資金に活用
 されます。)

また、10 月 12 日・13 日も「オリンパスデジタルカレッ
 ジ赤沢森林鉄道特別撮影会（講座）」で「酒井 D L」「貴賓車」
 「理髪車」の展示等が予定されています。

(一社) 上松町観光協会 H P の告知も是非ご覧ください。
 ※撮影会参加申込はオリンパスカレッジの H P からお願いします。



団体名	足久保鐵道株式会社	〒 420-0905 Tel : 054-207-7444 Fax : URL : https://www.facebook.com/ashikubotetsudo/notifications/ Email : tamai-h@tokai.or.jp 担当者：玉井宏政
-----	-----------	---

2018年11月13日、ひたちなか海浜鉄道譲渡していただいた元東武鉄道トラ1型、16号機が到着しました。



また、2018年12月にはアント20Wを導入しました。現在修復中です。



団体名	大井川鐵道株式会社	〒428-8503 Tel : 0547-45-4113 Fax : 0547-45-4115 URL : oigawa-railway.co.jp Email : koji.sakamoto@daitetsu.jp 担当者：坂本光司
-----	-----------	---

本年度も「きかんしゃトーマス号」の運転を行っております。

2019年6月22日～2019年12月1日までの延べ87日間・トーマス号・ジェームス号
合わせて206本を運転いたします。

10月にはSL乗車900万人の記念式典を行う予定です。



本年度、井川線開業60周年を迎え8月1日に千頭駅にて記念式典を行いました。
機関車には記念のヘッドマーク付けて走行しました。



「奥大井湖上駅」が「COOL JAPAN AWARD」2019を受賞しました。この受賞を機に井川線そして大井川鐵道に、外国からのお客様が更にも増えますよう期待しております。



団体名

東海旅客鉄道株式会社

〒455-0848
名古屋市港区金城ふ頭 3 丁目 2-2
TEL 052(389)6100
<https://museum.jr-central.co.jp/>

リニア・鉄道館

Information

○入館料

大人 1,000 円 (団体 800 円)
小中高生 500 円 (団体 400 円)
幼児(3歳以上) 200 円 (団体 100 円)

※障がい者手帳をお持ちのお客様と付添の方
大人 500 円、高校生以下 200 円

○休館日

毎週火曜日 (祝日の場合は翌日)
年末年始 / 12 月 28 日 ~ 1 月 1 日
(※春・夏・冬休みやGWは無休)

○展示

鉄道車両 39 両 + バス 1 台、鉄道のしくみコーナー、
超電導リニア展示室、歴史展示室、鉄道ジオラマ、
シミュレータ、シアターなど



【高速鉄道技術の進化が一望できる車両展示エリア】

【2019 年の記事】

○屋外展示車両の置き換え

N700 系量産先行試作車 3 両 (7/17 ~ 公開)

○プラレール 60 周年記念展 (7/3 ~ 9/2)

○第 8 回企画展 (3/20 ~ 9/23)

「東海道新幹線の進化
~ 100 系新幹線のデビューと果たした役割 ~」

○車内特別公開 (愛知 DC アフターキャンペーン)

C62 形式蒸気機関車運転台、ホジ 6014 号蒸気動車
(ともに 10/1 ~ 12/27)

○映像シアター 新コンテンツの公開 (3/30 ~)

『新幹線 (SHINKANSEN) の開発と進化』

○運転台特別公開

0 系 (7/17 ~ 9/9)、100 系 (3/1 ~ 5/6、9/11 ~ 10/14)、300 系 (5/8 ~ 6/3、10/16 ~ 12/2)、
700 系 (6/5 ~ 7/15)

○車両ガイドツアー

「パネの働きと電車の乗り心地ガイド」(3/21 ~ 4/7)、「鉄道車両の塗装の変遷ガイド」(4/13 ~ 4/30)、
「クロ 381 形式電車車内特別ガイド」(5/1 ~ 5/26)、「ホジ 6014 号蒸気動車ガイド」(5/19 ~ 11/30)、
「新幹線のひみつをさぐろう! 『新幹線の省エネ』ガイド」(8/2 ~ 9/1)、
「『新幹線の 7 つのひみつ』ガイド」(9/14 ~ 10/20)、N700 系新幹線ガイド (10/22 ~ 12/1)

○お仕事紹介

駅係員 (6/8、9)、在来線乗務員 (9/21 ~ 23)、在来線運転士 (3/30、31)、
在来線車掌 (7/13、14、11/23、24)、新幹線運転士 (8/3、4、24、25、10/19、20、26、27)、
新幹線車掌 (6/15、16、22、23、9/14、15)、パーサー (4/13、14、10/12、13)、
新幹線車両所社員 (5/4、5、11/16、17)、新幹線保線関係社員 (8/12、13)

○前頭オオイ特別開放

0 系 (4/30、11/2 ~ 4)、100 系 (4/28、6/1、2、8/14 ~ 16)、300 系 (4/29)、700 系 (3/23、24、5/1)、
N700 系 (9/21 ~ 23)

○各種イベント

みどころガイド、クイズラリー (ともに土休日及び春・夏・冬休みなどは毎日)

○その他

こどもパスポートの発売 (3/13 ~ 9/2 小中高生 1,000 円、幼児 400 円)、
JR 東海音楽クラブコンサート (4/21、10/13)、50,000 人の写真展 2019 (8/17 ~ 8/25)、
講演会 (9/15、10/14、12/1)、鉄道模型の特別展 (10/2 ~ 12/27)、
鉄道の標記文字のひみつ特別展 (10/24 ~ 12/27) など



屋外展示の N700 系新幹線電車

団体名	公益財団法人 博物館 明治村	〒484-0000 愛知県犬山市内山 1 番地 Tel : 0568-67-0314 Fax : 0568-67-0358 URL : http://www.meijimura.com/ Email : masataka.kondou@nrr.meitetsu.co.jp 担当者：近藤 雅隆
-----	--	---

<蒸気機関車>

- (株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。
- SL12 号と SL9 号が 10 日間くらいの間隔で交互に動態展示を実施。
- ボイラ検査を SL12 号は 9 月 6 日 (木)、SL9 号は 11 月 15 日 (木) に実施。
- 7 月はメンテナンス等の為、毎週月火を運休。
- 8 月はメンテナンス等の為、土日祝のみ運行。
- 2019 年 9 月より SL12 のオーバーホールを(株)東海汽缶で実施予定。

<ハフ 11・13・14>

- (株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

<京都市電>

- (株)ジェイアール西日本テクノスによる車両点検を 3 ヶ月に 1 回実施。

<設備工事・点検>

- 名鉄 E I エンジニア株式会社による電路・電気設備点検を半年に 1 回実施。
- 矢作建設 (株) による軌道点検整備を半年に 1 回実施。

<蒸気機関車及び京都市電の動態展示>

蒸気機関車※SL9 号と SL12 号のどちらかが 3 両の客車を牽引します。

片道 大人 500 円 小学生 300 円

京都市電※1 号車と 2 号車のどちらか 1 両が運行します。

1 乗車 大人 500 円 小学生 300 円

S L 市電一日券

乗り降り自由 大人 700 円 小学生 500 円



SL9 号・SL12 号



京都市電

団体名

NPO法人
あいぎ
愛岐トンネル群保存再生委員会

〒 486-0844
Tel : 090-4860-4664
Fax : 0568-87-6533
URL : <http://aigi-tunnel.org>
Email : muramasa@mc.ccnw.ne.jp
担当者：村上 真善



年 2 回の特別公開！

日ごろは立ち入り禁止の廃線を春と秋、合計約 2 週間一般公開しています。春は“青”モミジと新緑、秋は 300 本もの紅葉狩りに、多くの市民が隠れたモミジの名所として訪れます。



全国初！C57 の動 輪が人力で廻る。

自転車を利用して 4 t もの動輪が回ります。公開期間中は子供たちの待ち行列が出現し、SLが走っていた廃線に思いをはせています。愛岐トンネル群は、碓氷峠・旧北陸線と並ぶ“日本 3 大廃線トンネル”の一つ



秋の公開日は！ 11 月 23 日～12 月 1 日の 9 日間

団体名

NPO法人
神岡・町づくりネットワーク
(レールマウンテンバイク Gttan Go!!)

〒 506-1147

Tel : 090-7020-5852

Fax :

0578-82-6677

URL : <https://rail-mtb.com>

Email : info@rail-mtb.com

担当者: 田口 由加子



旧車両 おくひだ 1 号 (KM-101) の運転体験

2019 年度は本線の 800m 区間を使用した運転体験日を 4 日間設けました。旧奥飛騨温泉口駅から神岡大橋駅までの本線の走行となるため、レールマウンテンバイクの定休日である水曜日に開催し、全国の体験運転士さんに楽しんでいただいております。



おくひだ 1 号の一般開放

レールマウンテンバイクのまちなかコースの集合駅に保存している車両に階段をつけて一般開放を始めました。車内にはなぜか囲炉裏があり、まるでサロンバスのような雰囲気、空調は扇風機が4つだけというノスタルジックな内装が都市部のお客様には珍しがられております。

猪谷駅の構内をガッタンゴー!!が走行

9月8日に毎年恒例の猪谷関所祭り(富山県JR猪谷駅)で、駅の構内の検修線の約100mをレールマウンテンバイクが走りました。アイドリング停車中のキハ120や、運転士さん交代中のキハ85をバックに一部のマニアにだけ「映える」写真が撮れる、またとない機会です。



旧長浜駅舎・長浜鉄道文化館・北陸線電化記念館の総称



〒526-0057 滋賀県長浜市北船町1番41号(JR長浜駅から徒歩3分)
TEL.0749-63-4091 FAX.0749-64-0396
<http://kitabiwako.jp/tetsudou/>

名誉館長 米山 淳一(日本鉄道保存協会 事務局長)
館長 今井 克美(公益社団法人長浜観光協会 専務理事)
担当者 梅園 いづ子(公益社団法人長浜観光協会)

●旧長浜駅舎 明治15年3月10日、長浜～敦賀の北陸線始発駅として開業。昭和58年に鉄道資料館として開館。現存する日本最古の駅舎です。

●長浜鉄道文化館 公益財団法人ナショナルトラストが、まちづくり事業の活動支援の拠点「ヘリテイジセンター」として2000年10月に設置・開館しました。長浜の鉄道文化を後世に伝える資料館として常設展示の他、企画展示も行っています。建築家・吉田桂二氏設計で天井はヨーロッパのターミナル駅を模した木造アーチづくりです。

●北陸線電化記念館 鉄道文化館と同様の趣旨で2003年7月に開館しました。機関車庫をイメージした建物で吉田桂二氏設計によるものです。D51形蒸気機関車と日本で唯一残る交流電気機関車のED70の1号機を展示しています。



平成30年度 開催企画展・イベント

【企画展】

- さよならポニー ～SL北びわこ号C56形蒸気機関車の軌跡～ 【2018/4/28～5/27】
- ビジネス特急こだまとブルートレインあさかぜ誕生60周年特別展 【2018/7/1～9/30】
- 「明治150年企画展 どうこい生きてる明治の鉄道施設」写真展 【2018/10/1～12/28】
- 雪にいどむ鉄道展 【2019/2/2～4/21】



【イベント】

- 鉄道の日企画「親子で鉄道を磨こう」【2018/10/14】



現在開催中の企画展

- 天賞堂鉄道模型展 【2019/7/6～9/30】
天賞堂の鉄道模型やカタログなど
252点を一堂に展示



公益社団法人長浜観光協会

〒526-8501 滋賀県長浜市八幡東町632番地

TEL.0749-65-6521 FAX.0749-64-0396

E-mail. kankou@city.nagahama.shiga.jp <http://kitabiwako.jp/tetsudou>

tripadvisor2019 エクセレンス認証に
認定されました！！



団体名	長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会 (事務局：南越前町観光まちづくり課)	〒919-0292 Tel：0778-47-8002 Fax：0778-47-3261 Email：kanmachi@town.minamiechizen.lg.jp 担当者：西田 周平
-----	---	--

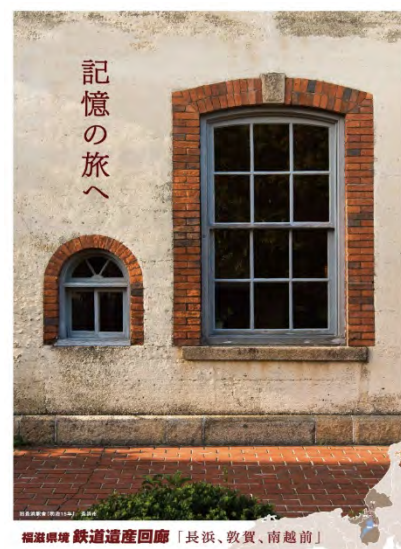
○協議会概要

長浜市・敦賀市・南越前町に現存する明治時代の鉄道遺産など、近代化遺産を活用した広域的な観光連携を推進するため、平成29年10月19日に、長浜市・敦賀市・南越前町の3市町において連携協定を結び、協議会を設立しました。

当協議会では、明治15年に日本海側で最初に開業した長浜ー金ヶ崎（敦賀）間の鉄道の歴史や、敦賀ー今庄間の急勾配の峠越えなどのストーリーを活かし、県境をまたいだ広域観光を推進していきます。

○平成30年度事業実績

- ①平成30年5月15日（敦賀市役所）
 - ・長浜市・敦賀市・南越前町観光連携協議会総会
- ②平成30年8月～平成30年12月
 - ・モバイルスタンプラリーの実施
- ③平成30年9月～平成31年3月
 - ・トンネルカードの制作
- ④平成30年11月5日（3市町）
 - ・3市町のボランティアガイドを対象とした鉄道遺産に関する現地研修会の開催
- ⑤平成30年11月17日、18日（敦賀市きらめきみなと館）
 - ・「つるが鉄道フェスティバル」に投炭練習機や石額拓本の出展
- ⑥平成30年11月17日（3市町）
 - ・SL型マイクロバスによる3市町の鉄道遺産を巡る鉄道遺産ツアーの開催
- ⑦平成30年12月～平成31年3月
 - ・近代化遺産マップの制作
- ⑧平成31年1月
 - ・第67回観光ポスターコンクールへの応募および入賞受賞
- ⑨平成31年1月23日
 - ・日本遺産への申請
- ⑩平成31年3月10日（JR木ノ本駅周辺）
 - ・D51 デビュー記念イベントへの出展



■2018年度の活動経過

2018年度は、9月に開館15周年ということで、旧関西鉄道鉄製有蓋車・木造無蓋車ト1形15・ホツパ車ホサ1形1・鉄製有蓋車テラ1形146の修復披露イベント、三岐鉄道三岐線・衣浦臨海鉄道でヘッドマーク付貨物列車運行、三岐鉄道三岐線スタンプラリー、グッズ発売などの記念事業を行った。



修復が完了した
旧関西鉄道鉄製有蓋車
2018年10月21日

■2019年度の活動計画

2019年度は、15周年事業に間に合わなかった有蓋緩急車ワフ21000形21120・木製有蓋車ワ1形5490・ワ11形11の修繕作業などを行う。



ワフ21120 下地サビ止め塗装中
2019年8月4日

◆2019年度定期開館日

2019年4月7日(日)、5月5日(日)、6月2日(日)、7月7日(日)、8月4日(日)、9月1日(日)、
10月6日(日)、11月3日(日)、12月1日(日)、2020年1月12日(日)、2月2日(日)、3月1日(日)

団体名	西日本旅客鉄道株式会社	〒530-8341 Tel : 06-6375-2176 URL : http://www.westjr.co.jp/ (JR 西日本) http://www.kyotorailwaymuseum.jp/ (京都鉄道博物館) Email : shinichi-saji@westjr.co.jp 担当者：佐治 慎一
-----	-------------	---

1. 京都鉄道博物館

西日本旅客鉄道株式会社（JR 西日本）が所管する京都鉄道博物館は、2019 年 4 月に開業から丸 3 年となりました。2018 年 11 月には累計入館者 300 万人を達成しました。多くのお客様のご来館、誠にありがとうございました。



京都鉄道博物館では、本物の蒸気機関車が牽引する「SL スチーム号」や「引込線車両展示」、現役の JR 社員が子供達に鉄道のお仕事を解説する「鉄道おしごと体験」など、楽しく学べる企画がいっぱいです。加えて「運転シミュレータ」や「鉄道ジオラマ」も大人気！

(SL スチーム号)



(運転シミュレータ)



(鉄道ジオラマ)



(引込線車両展示)



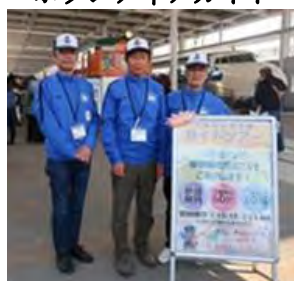
(保線社員による鉄道おしごと体験)



瀬戸大橋線で活躍する
「瀬戸大橋アンパンマン特ロッコ号」
を JR 四国様からお借りし展示
(2019/2/2～3/3)

せとうちエリアを旅する
特別な観光列車「ラ・マル・ド・ボア」
を展示 (2019/2/9～2/11)

鉄道OBによる
ボランティアガイド



「梅小路京都西駅」2019 年 3 月開業



国鉄や当社OBによるガイドも好評！
また、今年 3 月には京都鉄道博物館近く
(徒歩約 2 分) に「梅小路京都西駅」が
開業し、ますます便利に！

2. 鉄道文化活動

JR 西日本では、京都鉄道博物館を中心に、当社エリア内の鉄道遺産を保存・管理し、これらを活用する、鉄道文化活動を推進しています。

団体名



公益財団法人
交通文化振興財団

〒 532-0011 大阪市淀川区西中島 4 丁目 2-26
天神第一ビル 1004 号室
Tel : 06-6309-5113 Fax : 06-6309-5114
URL : <https://tcpf.or.jp/>
担当者：事務局交通資料調査センター

○旧別府鉄道の保存車両を調査しました

交通資料調査センターでは、兵庫県加古川市の別府港と国鉄高砂線（廃線）の野口駅、山陽本線の土山駅を結んでいた別府鉄道の保存車両の調査・視察を実施しました。今回は加古川市の円長寺公園（円長寺ポケットパーク）に保存されているキハ 2 号機が調査の対象でしたが、併せて播磨町郷土資料館に保存されている別府鉄道のディーゼル機関車と客車の視察も行いました。なお、本調査では、播磨町郷土資料館、播磨町文化協会、旧別府鉄道キハ 2 号を守る会にご協力いただきました。

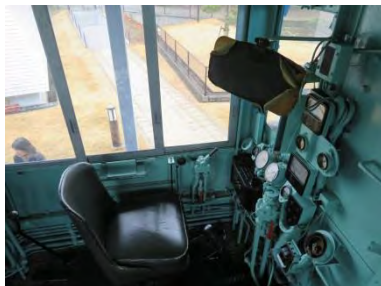
播磨町郷土資料館



（写真）遊歩道「であいのみち」



（写真上・下）ハフ 5 客車



（写真上・下）DC302 号ディーゼル機関車

播磨町郷土資料館では、DC302 号ディーゼル機関車とハフ 5 客車の屋外展示と、展示室内で別府鉄道関連資料の展示がされています。また、同館の前を通る遊歩道は、別府鉄道土山線の線路跡を整備したものです。

円長寺公園の「キハ 2 号」



この日は、キハ 2 号の保存・修復の活動を進めている「旧別府鉄道キハ 2 号を守る会」の活動日ということで、現地では、同会の皆様にご案内頂きながら調査を進めました。車体の状態や機関、台車等の各部の確認に加えて、現在作業中の窓枠修繕やこれまでの修復作業、これからの展開について同会の皆様と有意義な意見交換をすることができました。調査終了後は、旧別府鉄道の廃線跡をたどりながら、山陽電鉄の別府駅へと向かいました。廃線跡は歩道として綺麗に整備されていますが、途中の交差点に残された踏切の線路が、かつて、この地に鉄道が走っていたことを物語っていました。



～皆様からのご寄附が、交通の歴史と文化を未来に伝える大きな力となります～

交通資料調査センターの活動は皆様からのご寄附により支えられています。交通の歴史・文化を着実に未来に継承していくため、皆様からのご支援をお願い申し上げます。
ブログ、facebook、twitter で情報発信しています。ぜひご覧ください！

交通文化振興財団



団体名



加悦SL広場

宮津海陸運輸(株)

〒629-2422 京都府与謝郡与謝野町字滝941-2

TEL 0772-42-3186 FAX 0772-42-5300

URL <http://www.kyt-net.jp/kayashiroba/>

近況

■ヨ2047車掌車修繕が完了致しました。



ヨ2047 車内の様子

奥に見えるのは可愛い
小型ダルマストーブです。

履歴

- 1937年 汽車製造にて新製
- 1955年 福知山客貨車区 配属
- 1972年 西舞鶴客貨車区 転属
- 1980年 廃車
- 1981年 町が展示用として国鉄より借用

令和1年8月 加悦SL広場 園内にて

ヨ2000は国鉄で最初に新製された車掌車で、1937年から1938年にかけて100両が製造されました。車掌車は貨物列車の最後尾に連結する、乗務員専用車です。車内には執務用のテーブルと座席の他、小型の石炭ストーブ(ダルマストーブ)が設置されています。本車両は、現存する唯一のヨ2000形の動態車両です。

【ヨ2047 車掌車 諸元 : 全長×全幅×全高: 7,830mm×2,640mm×3,755mm 自重:9.5t】

■TMC100BSモーターカー・KD-4カトーくん 修繕・塗装



■平成30年11月SL広場「周年祭」及び 令和1年5月「初夏の加悦鉄道まつり」を開催

■令和1年度 SL広場「周年祭」11月初旬 開催予定

※再現列車乗車会ほか、与謝野町近隣団体等との連携イベント「滝・金屋地区 秋の大感謝祭」共催
今後も車両等の修復を通し、加悦鉄道の歴史・鉄道文化遺産の保存維持に取り組んで参ります。

■2018年10月～2019年8月までの主な活動



「周年祭」「初夏の加悦SLまつり」
『加悦鐵道再現列車』を運転



加悦鐵道資料館にて
地元小学生の課外授業



恒例の見学会・新年会
見学会 カワサキワールド

○ 2019年8月現在、会員は東京都から沖縄県在住の45名で、自分ができる範囲内で楽しみながら活動しています。

○ ホームページのご案内
より詳しい作業状況やイベント情報、オリジナル商品の情報が満載です。

<http://kayatetsu.web.fc2.com/>



関西学院大学 鐵道研究会 夏季合宿
遮断機の塗装を体験してもらった



ヨ2047車掌車
整備作業に協力、整備を終え出場

団体名	片上鉄道保存会	〒708-0001 岡山県津山市小原 149-5 URL : http://katatetsu.travel.coocan.jp Email : hozonkai@katatetsu.travel.coocan.jp 担当者：代表 甲本康則
-----	--	--

岡山県久米郡美咲町の「柵原ふれあい鉱山公園」で、旧片上鉄道の車両や施設等の保存・維持活動を行っています。展示運転は毎月第一日曜日です。

展示運転概況

2018 年度の展示運転回数は、定例展示運転 12 回、臨時展示運転 2 回の計 14 回で、吉ヶ原－黄福柵原間（0.4km）の運転本数は 287 本（1 日平均 20.5 本）、列車キロは 111.0km でした。鉱山公園は美咲町の産業祭「ぽっぽまつり」（11 月）の会場になっており、来場者の体験乗車も行いました。活動に参加し乗車した一日会員数は、1 年間で延べ約 2500 名でした。

車 両

展示運転に使用できる車両は、動力車 4（機関車 1、気動車 3）両、客車 3 両、貨車 3 両ですが、動力車以外で 2018 年度に運用できたのは客車 1 両にとどまりました。車両の老朽化が進み、屋外保管となっている車両の保全が難しくなっています。動力車も故障箇所の対応に追われ、予備車がなかったこともあり運用には苦労しました。この夏、キハ 702 号が装いも新たに復帰しました。



施 設

黄福柵原駅では着発線延伸工事が進みました。本線のまくらぎ・道床交換など保線作業は多く、公園の踏切改良工事（まくらぎ交換と護輪軌条新設）も進めています。この現場に使うべく、片上鉄道の踏切道跡に唯一残っていた護輪軌条と敷石が過日回収され、近く展示運転線に復活することになっています。

本年度の事業

本年度も、展示運転 14 回が計画されています。車両・施設の保存・維持に加え、春先の突風で客車の屋根が剥離するなど、追加作業も生じています。新規整備としては新設転てつ器へのリバー設置と連動化や、腕木式信号機運用に向けた第 2 種機械連動装置の整備などがありますが、少々遅れております。

安全の確保を最優先とし、運転に従事する会員への教育・訓練も効率よく行ないたいと思います。



皆様のご支援を賜り、1998 年 12 月の展示運転開始から昨年で 20 年を経過しました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

駅間 0.4km のわずかな区間ながら、片上鉄道が現役だった頃の光景が今後も再現されていくことを楽しみに、これからも活動を行ってまいります。

ご来園を心からお待ちしています。

若桜駅を元気にする会

〒680-0701
鳥取県八頭郡若桜町若桜801-5
若桜町役場ふるさと創生課内
TEL:0858-82-2231
FAX:0858-82-0134
E-mail:furusato@town.wakasa.tottori.jp



観光列車「八頭号」の運行開始に沸く
若桜駅のホーム(2019.3.2)

若桜駅・駅周辺の近況

蒸気機関車(C12-167)やディーゼル機関車(DD16-7)の運転体験、トロッコ列車(元長野電鉄無蓋車ト6)の乗車体験、ピンクSLなどの各種イベントに取り組み、若桜駅周辺は多くの観光客で賑わっています。

平成30年3月には、水戸岡鋭治氏デザインの観光列車「昭和」が、平成31年3月には「八頭号」が運行を開始し、若桜駅の賑わいは更に増えています。

また、令和元年5月17日には秋篠宮皇嗣同妃両殿下が若桜

SL・DL運転体験

- 〈場 所〉若桜駅構内 SL走行線
〈内 容〉実務講習
(運転取扱及び車両の構造を図面、写真で講習)
指導講習(主任運転士による見本運転 1往復)
体験運転(教官がついての実車運転 2往復)
〈料 金〉10,000円
〈開催日〉SL 4・6・8・10月の第3土曜日
DL 5・7・9・11月の第3土曜日
〈その他〉事前のお申し込みが必要です。



SL(C12-167)及び転車台



DL・12系客車

SL走行日

- 〈場 所〉若桜駅構内
〈料 金〉入構料300円(子ども無料)、トロッコ乗車体験200円
〈開催日〉4月～11月の第2・4日曜日(11:00、13:30、15:15)
5月のゴールデンウィーク、お盆

※ 開催日は変更となる場合があります。

2018年8月～2019年7月までの主な取り組み



← 会員研修の実施
(京都鉄道博物館)

鉄道沿線に
菜の花の種まき →

↓ 新デザイン列車の
デビューイベント参加

若桜駅を元気にする会では、若桜駅周辺及び若桜鉄道若桜線沿線の美化清掃活動、駅周辺で開催されるイベントへの協力などにより、若桜駅と沿線地域の振興に取り組んでいます。



団体名	N P O 市民文化財ネットワーク鳥取	〒 680-0022 鳥取県鳥取市西町 1 - 1 0 6 TEL 0 8 5 7 - 2 6 - 1 1 5 1 FAX 0 8 5 7 - 2 2 - 4 1 0 3 http://shiminbunkazai.net/
-----	---------------------	---

当ネットワークは、鳥取市や県内の歴史的遺産の保存活用を推進するための市民活動を推進しています。これまでに県内の歴史的建造物や集落、町並み、さらに近代化遺産としての鉄道等の調査や講演会、見学会、シンポジウムを多数実施してきました。

特に鳥取市内では、鳥取藩家老で近代鳥取の礎を築いた、岡崎平内家住宅の取得保存や修復整備を核として、歴史を生かしたまちづくりを提言しています。

また、若桜町では、歴史を生かしたまちづくりの視点から、歴史的町並み、伝統的民家、鉄道遺産の保全を盛り込んだフォーラムを実施しました。

その結果として「若桜宿」調査を始め、若桜鉄道の C12 164 号の里帰り運動、さらに若桜鉄道の歴史的施設構造物の国登録有形文化財に向けての調査指導、所見作成などを手掛けています。結果、沿線 2 3 の対象が国登録有形文化財になりました。

最近では、日本鉄道保存協会と力を合わせて「鳥取鉄道記念物公園」の現状把握実施。高架駅화에伴い、旧鳥取駅ホームや構内の設備を一部移設展示した全国でも稀な公園として、その存在を会員や市民にアピールしました。以下写真で紹介いたします。



若桜鉄道隼駅（国登録有形文化財）



鳥取鉄道記念物公園。駅舎の柱に双頭レールを使用
旧鳥取駅ホームの一部が見事に復元されている

団体名	山口線 S L 運行対策協議会	〒753-8501 山口県山口市滝町 1 番 1 号 山口県観光プロモーション推進室内 Tel : 083-933-3204 Fax : 083-933-3179 URL : http://www.c571.jp/ Email : c571@c571.jp 担当者：西山 洋史
-----	-----------------	--

◆ S L 「やまぐち」 号の概要

〔2019 年運転期間〕

2019 年 3 月 23 日～11 月 24 日の土日祝日を中心に運行
(78 日間)

〔運転区間〕

新山口駅 (山口県山口市) ⇄ 津和野駅 (島根県津和野町)

※ 1 日 1 往復

〔運転時間〕

新山口駅：10 時 50 分発～津和野駅：12 時 59 分着

津和野駅：15 時 45 分発～新山口駅：17 時 30 分着



【近況報告】

◆ 『令和改元記念 S L 「やまぐち」 号出発式』

2019 年 5 月 1 日 (水・祝) に「平成」から新元号「令和」へ改元されることに合わせ、S L 「やまぐち」号で令和改元記念出発式を実施しました。

改元日となる 5 月 1 日 (水・祝) は、蒸気機関車 D51-200 に日章旗を掲げ、S L 「やまぐち」号を運転し、「令和」の時代の幕開けを地元住民や多くの鉄道ファンによる手旗によるお手振りなどにより、お祝いしました。



◆ S L 「やまぐち」 号 40 周年記念イベント出発式

S L 「やまぐち」号は令和元年 8 月 1 日に、運行開始から 40 周年を迎えました。昭和から令和にいたる 40 年間の感謝の気持ちを込めて、駅や車内で記念イベントを開催いたしました。

赤く塗色された『ナンバープレート』、昔から使用している『ヘッドマーク』、12 系時代の『テールマーク』を特別に取り付け、山口線に S L が復活した昭和 54 年当時の S L 「やまぐち」号を彷彿とさせる姿で運転しました。



◆ S L 「やまぐち」 号運行開始 40 周年

S L 「やまぐち」号は令和元年 8 月 1 日に、運行開始から 40 周年を迎えました。

40 周年を記念したオリジナル手旗を作成し、地域住民の方々のお手振り時に活用いただいております。手旗の裏面は S L 「やまぐち」号の 40 年を振り返る年表となっており、地域の方々にも 40 年の歴史を振り返っていただく機会となっています。



愛媛県西条市

鉄道歴史パーク in SAIJO

〒793-0030

愛媛県西条市大町 798-1

TEL0897-47-3855 FAX0897-53-6200

鉄道歴史パーク in SAIJO

検索



北館に並んで展示する0系新幹線とDF50 1

○ 四国鉄道文化館へようこそ

愛媛県西条市の JR 伊予西条駅隣にある四国鉄道文化館には、合計 6 両の貴重な実物車両を展示しています。北館には「0 系新幹線電車」と「DF50 形ディーゼル機関車 1 号機」を展示。ともに運転席を常時開放し、運転士気分が味わえます。

○ C57 44 号機ほか展示車両が充実

南館には、C57 形蒸気機関車、キハ 65 形急行用気動車、DE10 型ディーゼル機関車、フリーゲージトレインの 4 車両を展示。また、四国の沿線風景の 1 日を再現した演出運転が大人気の鉄道ジオラマは、見ごたえ十分です。このほか、各種鉄道標識や信号機、在来線や新幹線車両の動輪などを展示し、鉄道文化を楽しく学べる展示内容となっています。



C57 44



キハ 65 34



DE10 1



南館外観とフリーゲージトレイン

○ 第 4 代国鉄総裁・十河信二氏ゆかりのまち「西条市」

「新幹線の生みの親」とも言われる十河信二氏は、西条市長も務めた「名誉市民」でもあります。市ではパーク内に「十河信二記念館」を整備し、「夢の超特急」東海道新幹線の開通に尽力した氏の功績と人間的な魅力を紹介しています。



十河信二氏胸像

○ 秋の鉄道イベントを開催！＜11/23.24 鉄道フェスタ 2019＞

四国鉄道文化館は、2019 年 11 月 26 日でオープン 12 周年を迎えます。たのしい記念イベントを開催します。特に、11/23・24 の 2 日間は「鉄道フェスタ」として、JR 四国の協力のもと、「新型特急 2700 系」（予定）の特別展示をはじめ、様々な体験メニューを企画しています。



昨年の鉄道フェスタ「おさんぼなんよ」特別展示



「新型特急 2700 系」

ぜひ、四国鉄道文化館“てつぶん”へ
お越しください！！



てつぶん 6 姉弟（きょうだい）

【鉄道歴史パーク in SAIJO】

JR 伊予西条駅隣の「鉄道歴史パーク in SAIJO」。パーク内には「四国鉄道文化館 北館」「四国鉄道文化館 南館」「十河信二記念館」「観光交流センター」の 4 つの施設があります。

○開館時間：9 時～18 時（最終入館 17：30） ○休日：水曜日（観光交流センターは無休）

○入館料：（四国鉄道文化館 両館共通）大人 300 円、小中学生 100 円、幼児無料、各種割引有

馬路村 や な せ 魚梁瀬森林鉄道

〒781-6202

高知県安芸郡馬路村大字魚梁瀬 10-11

馬路村役場魚梁瀬支所

TEL : 0887-43-2211 FAX : 0887-43-2208

E-mail : yanase@vill.umaji.kochi.jp

URL : <http://www.umajimura.jp/>

古くから高知の林業は栄えてきました。県内の多くの木材が朝廷奉納や幕府献上として活用されていた記録が古い文書に残されています。

特に銘木、魚梁瀬杉で知られるように森林資源に恵まれた馬路村では、木材搬出のため、明治44年に、国内3番目の森林鉄道として、馬路から田野間を結ぶ森林鉄道が開通しました。その後、馬路から魚梁瀬まで延長され、大正6年には本線終点の石仙まで軌道が伸びました。やがて奈半利川沿いにも軌道が敷かれるようになり、総延長250kmといわれる県内最大級の森林鉄道となりました。

しかし、昭和32年、魚梁瀬ダム建設に伴い森林鉄道の廃止が決定しました。33年から軌道の撤去がはじまり、38年に安田川線の撤去が完了し、惜しまれながら廃線されましたが、現在でも、当時の面影を残す隧道や橋梁跡などが点在し、人々の生活の中に残っています。

その繁栄を遂げた魚梁瀬森林鉄道の遺産として、平成21年に橋梁や隧道など18箇所（馬路村内では4箇所）が国の重要文化財の指定を受けました。同年には経済産業省の近代化産業遺産群にも9基（馬路村内では2基）が認定されました。広域（馬路村を含めた中芸5ヵ町村）で国の重要文化財の指定を受けるのは、我が国初のことです。

平成29年度、森林鉄道の遺構が残る中芸5ヵ町村が申請した「森林鉄道から日本一のゆずロードへーゆずが香り彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化ー」が日本遺産に認定されました。

現在、貴重な観光資源としても活用され、林鉄は馬路村に多くの観光客を集めています。

●馬路森林鉄道

実物の3分の2の大きさに復元された森林鉄道。安田川支流の西谷川沿いに線路が敷かれ、約300mの周回コースを走ります。

◎場所／馬路村馬路 馬路温泉前

◎運行日／日、祝日 8時30分～16時

[8月は毎日運行]

◎料金／乗車大人400円など

◎お問い合わせ／馬路温泉

TEL:0887-44-2026



●魚梁瀬森林鉄道

魚梁瀬ダム湖が見下ろせる丸山公園に、復元された森林鉄道があります。指導を受けながら運転することができる「運転手体験」メニューもあります。

◎場所／馬路村魚梁瀬 丸山公園内

◎運行日／日、祝日 10時00分～12時、13時～15時30分

[8月は土曜も運行]

◎料金／乗車大人400円、運転体験1,000円など

◎お問い合わせ／馬路村役場魚梁瀬支所

TEL:0887-43-2211



団体名

九州旅客鉄道株式会社

〒812-8566 福岡市博多区博多駅前 3-25-21

Tel : 092-474-2541 Fax : 092-474-3898

URL : <http://www.jrkyushu.co.jp/>

力強い鼓動、響く汽笛が
懐かしくて新しい

SL人吉

熊本～人吉



SL人吉 10周年の歩み



2007～2008年のSL修復シーン



- 肥薩線全線開業100周年を迎えた2009年4月25日に運行を開始し、今年で10周年。
 - 機関車58654(8620形蒸気機関車58654号機)は、国鉄の前身である鉄道院が1922年(大正11年)に製造したもの。
 - 53年、九州各地を延べ300万Km余り走行し、廃車となり、肥薩線「矢岳駅」前に静態保存されていた。
 - 1988年(昭和63年)までに、大規模修繕の末、熊本県内を中心に運行していたが、2005年(平成17年)、台枠や車軸に異常が発生、修復不可能の判断で、再び静態保存されることとなった。
 - 奇跡的にも、製造会社であった「日立製作所」に製造時の図面があることが判明し、2007(平成19)年より台枠を新製するなど客車も含め約4億円を投じて修復された。
 - この10年では、2016年の熊本地震で数日運休となったものの、大きな事故もなく、延べ328,000名(2018年11月末まで)のお客さまを運び続けている。
- 現在では、営業路線上を営業運行しているSLでは、日本最古となっている。



団体名

北九州線車両保存会

福岡県筑紫野市二日市西3丁目12-1-2F
株式会社ワンマイル内 北九州線車両保存会
<http://kitakyuushuusen.main.jp/>
担当 手嶋 080-6412-1666 毎熊 080-5607-8193

門司港レトロ148号再塗装



施工中



竣工

大牟田線211号整備



2019/07/30

大牟田市内線204号移設竣工式典参加



NHK BS 鉄オタ選手権 取材対応



2019/07/30



会員による保存作業に有効な各種資格取得中

●毎熊 晃

有機溶剤作業主任者

第二種電気工事士

甲種危険物取扱者（取得予定 九州大学工学部応用化学部門卒業）

軌道装置動力車運転者

●手嶋 康人

石綿作業主任者

建築物石綿含有建材調査者

軌道装置動力車運転者

団体名	株式会社 東海汽缶	〒424-0065 Tel : 054-346-6688 Fax : 054-346-6430 URL : http://www.tokaikikan.co.jp/ Email : info@tokaikikan.co.jp 担当者 : 石川 寛之
-----	-----------	--

東海汽缶は、静岡にあるボイラーのメーカーです。昨年4月から大井川鐵道の兄弟会社になりました。これからの蒸気機関車保存のお手伝いをしたくて、日本鉄道保存協会に入会しました。

◎ 現代社会の中の蒸気機関車の存在

21世紀に入り、約20年が経過しようとしている現在、蒸気機関車の存在はどのように一般の方々から思われているのでしょうか？鉄道に全く興味がない方々からすれば「なにそれ・・・」という事でしょう。少しでも蒸気機関車の存在を知っている方からすれば、環境汚染が騒がれている現代社会の中で、煙をまき散らして走る蒸気機関車をこんなにも環境を汚染しているものはないという見方をする方はたくさんいると思いますし、無視はできません。しかし、なぜその蒸気機関車が今求められるのか。蒸気機関車が走れば町が活性化する。沿線地域も潤うというのが、いつの間にか格言となり定着するようになりました。一方、鉄道技術の継承という観点からはいかがでしょうか。明治時代の汽笛一声から日本の経済社会を支え、激動の昭和を乗り越えてきた蒸気機関車の技術を継承しようとする傾向は、日本全国各地でその試みが行われています。現在最先端に行く新幹線や、未来に繋ぐリニアモーターカーも現実化しようとしている中で、その根本は蒸気機関車にあるという考え方は依然根強く残っています。

◎ 東海汽缶の方針

東海汽缶では、昭和53年より約40年間大井川鐵道で使用中の蒸気機関車ボイラーについて、整備に携わってきました。一度廃止になったボイラーの復活、日頃の水漏れ箇所の修理など、長年にわたる実績と経験を活かし、今後は全国各地で活躍する蒸気機関車のボイラー整備について、技術力を提供させていただければ光栄です。また、移動式ボイラー特有の不具合や、蒸気機関車を構成する部品の一つとしての取り扱い方の注意点など、ボイラーのみでなく、蒸気機関車の寿命を延ばすためのご提案をさせていただきたいと考えています。さらに、整備作業につきましては、無駄を省き、手抜きのない必要最低限の整備をスローガンに掲げ、整備にかかる費用をできる限り低く抑え、より多くの皆様のご期待にお応えしたいと考えています。

◎ 蒸気機関車に関わる主な実績（大井川鐵道の例）

- ・ C11190号の使用検査を伴うボイラー整備工事
- ・ C5644号とC12208号、C11227号とC11312号のボイラー載せ替え工事
- ・ 各車両ステータ周りの水漏れ修理など

◎ 東海汽缶にできること

(1) ボイラーの修理等に関わること

- ① ボイラー水漏れ箇所の修理(出張作業可)
- ② 大・小煙管交換(出張作業可)
- ③ 過熱管の製作及び交換(出張作業可)
- ④ 火の粉止めの製作及び交換(出張作業可)
- ⑤ 煙室内蒸気吐出筒口の製作及び交換(出張作業可)
- ⑥ 溶栓の製作及び交換(出張作業可)
- ⑦ 連水管の製作及び交換

(2) ボイラーの検査に関わること

- ① ボイラー検査の立合い(使用検査、使用再開検査、変更検査、性能検査等)
- ② ボイラー載せ替え工事全般(使用時のボイラー検査証が存在する上で労働局への相談を要する)
- ③ 休止中及び廃止ボイラーの使用再開整備
- ④ ボイラー清缶工事
- ⑤ ボイラー板厚の実測値に基づいたボイラー強度計算書の作成
- ⑥ 都道府県労働局及び所轄労働基準監督署向け提出書類の作成及び提出

(3) 蒸気機関車の性能確認及び運行に関するアドバイス等

- ① 蒸気機関車ボイラーの最高使用圧力変更に伴う蒸気機関車性能曲線の作成
- ② 新規運転区間での運転曲線図の作成及び運転時分の提案
- ③ 蒸気機関車ボイラー載せ替え等に関わる車両構造装置変更確認申請書の作成及び運輸局説明
- ④ 蒸気機関車ボイラー図面のCAD化
- ⑤ 蒸気機関車用ボイラーの取り扱い方についてのアドバイス



旧北国街道今庄宿の町並み（南越前町）



敦賀市立博物館（旧大和田銀行）と町並み



旧北国街道長浜宿の町並み

日本鉄道保存協会

〒231-0012 横浜市中区相生町3丁目6-1番地 泰生ビル405号室

公益社団法人 横浜歴史資産調査会 気付

電話／FAX: 045-651-1730

URL: <http://www.rpsj.jp/>

Email: info@rpsj.jp

表紙・裏表紙写真：米山淳一